やまびこ

中宮道からの白山

金沢大学ワンダーフォーゲル部 OB 会会報　vol. 37

目　次

			(頁)
【OB 会会長あいさつ】	22 期	黒崎敏男	1
【OB 会活動便り】			
東海支部活動報告	16 期	川端俊朗	2
近畿支部活動報告	11 期	加藤忠好	4
第 25 回野沢温泉スキー合宿 2022	11 期	青柳健二	9
2022 年小屋作業	22 期	黒崎敏男	11
【現役より】	65 期	水谷冠太	12
【同期会便り】			
平成・令和　秀麗富岳多景	9 期	吉田洋次郎	14
3 年ぶりの 15 期会、金沢で	15 期	松林知一	17
【投稿のページ】			
今年も花の旅	8 期	篠島益夫	18
近年の、外国での記憶から	11 期	長岡正利	21
With コロナの 2022 年　古希越えの山遊び	15 期	舟田節子	25
野鳥のいる幸せ～コモンズを楽しむ～	17 期	小島　敬	29
剱岳早月尾根　白山北方稜線　医王山―白山縦走	62 期	伏木涼太朗	33
【会員のご意見】			33
【次回総会に向けて】	役員会		37
【会計担当より】	23 期	小久保光将	38
【編集後記】	24 期	仲村正一	39

表紙の言葉＜中宮道からの白山＞

クロユリなど高山植物の大群落、ブナ原生林、火山地形ほか白山を代表する自然が楽しめる中宮道です。ゴマ平避難小屋から下って上り返した滝ヶ岳付近からの姿で、浸食の進む地獄谷の上に左から剣ヶ峰、大汝峰、七倉山が見えています。（撮影：8 月上旬、15 期上馬康生）

ベルクハイムあやうし？

OB会会長　22期　黒崎　敏男

今年8月4日に石川県南部を中心とした大雨があった影響で、駒帰集落から先が通行止めとなってしまいました。寺津ゲートにさえたどり着けない状態で、小屋はますます遠くなり、かといって長時間かけて徒歩にて往復する根性もなく、困ってしまいました。復旧工事がいつ実施されるのか、されてもいつ車の通行が許可されるか現時点で不明です。

アプローチでもかねてから難所となっている小屋手前の川岸の「へつり」周辺は、以前から浸食が激しかったため、水量計にもたどり着けない可能性もあり、これからはう回路の尾根筋を行くしかないかもしれません。それ以前にダム湖の歩道も足元直下に湖面が見えるような切れ落ちた危険な箇所が年々増加しているので、もしさらに状態が悪化していれば、通行に時間がかかり、精神的にも疲労すること間違いありません。

小屋自体の状態も心配ですし、小屋じまいができなかったため、水を取り込むホースも来春果たして使用可能なのかわからず、こうなってしまっては無事であることを祈るしかないところです。今年夏にはヘリコプターが出動した救助事故のケースもあり、今では完全に秘境です。

先輩方の青春の思い出の地である犀奥ですが、自分が金沢に戻り、OB会活動に参加してからの10年余りでもその変化をはっきり認識せざるを得ない印象を持ちます。倉谷関係者の皆さんも高齢化し、道の維持のボランティアも限界が近づいていることもあり、県道の通行規制もあり最小限の小屋作業の活動しかできていませんが、それすら難しくなりつつあるのが現実です。

そうはいっても今すぐ小屋の維持をあきらめる必要はないので、知恵をしぼって何とか活動維持をしつつ、高三郎登山の可能性も捨てずに道の整備を復活したいところです。我々OB会だけでなく、他の団体、個人とも協力していく段階かもしれません。

さて、このような状況ですが、次回の春の小屋作業は来年5月前半を予定しています。小屋作業、登山道整備を計画してみますので、希望者は遠慮なくご連絡ください。特に、金沢近郊にお住いのOBOGの皆さんにはこうした状況への対応協力としてお誘い合せの上ぜひご参加ください。

また、来年9月30日（土）に総会・65周年記念行事を金沢KKRホテルにて開催する予定です。5月頃にご案内しますので、こちらも万障繰り上げご参加をお願いいたします。新型コロナ対策として、総会は別室にて席間のスペースを確保し、また懇親会は全席テーブル着席形式です。

今回、その総会にて皆様に提案したい内容を後のページに記載しました。様々な意見があるかとは思いますが、これに関してもご意見をお寄せください。

私自身もできるだけ多くの会員の皆様と直にお話しする機会をもつよう努力しますので、お会いできた際には忌憚のないご意見を承りたく存じます。

今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

東海支部活動報告
ＯＢ会東海支部は設立１０周年

16 期　川端俊朗

2012 年 4 月 14 日に東海支部設立総会を開催してから 10 年を迎えました。設立総会には愛知・岐阜・三重の 3 県を中心に 34 名のＯＢ諸氏が集い、元気よく発足しました。

東海支部設立総会　（東天紅にて）

毎年、3 県の山々や名勝地への日帰りＰＷを 3～4 回、夏の暑気払いと年末の忘年会の 2 回の懇親会をやってきました。ＰＷには 5～20 名、懇親会には 15 名程度が参加して和やかに活動を続けてきました。

ＰＷ行き先一覧

１、 御在所岳（三重）　2012. 5. 12
２、 笠置山（岐阜）　2012. 6. 23
３、 白草山（岐阜）　2012. 10. 27
４、 鳩吹山（岐阜）　2012. 12. 01
５、 くらがり渓谷（愛知）　2013. 3. 31
６、 藤原岳（三重）　2013. 5. 26
７、 山本山～賤ヶ岳（滋賀）　2013. 11. 16
８、 百々ケ峰（岐阜）　2014. 4. 12
９、 古代東山道（岐阜）　2014. 5. 31
10. 山伏（静岡）　2014. 10. 17-18
11. 養老山（岐阜）　2015. 9. 26
12. 猿投山（愛知）　2015. 10. 30
13. 揖斐川町而今庵（岐阜）　2015. 11. 28-29
14. 関ケ原中山道（岐阜）　2016. 6. 25
15. 道樹山（愛知）　2017. 1. 29
16. 鳳来寺山（愛知）　2017. 4. 01
17. 小津権現山（岐阜）　2017. 5. 14
18. 女城主直虎（静岡）　2017. 6. 10
19. 美濃禅定道（岐阜）　2017. 10. 21
20. 貝月山（岐阜）　2017. 11. 11
21. 鎌倉街道（愛知）　2018. 3. 25
22. 伊吹山北尾根（岐阜）　2018. 5. 04
23. 金華山（岐阜）　2018. 6. 16
24. 苗木城址（岐阜）　2018. 11. 17
25. 金山巨石群（岐阜）　2019. 3. 16
26. 神島（三重）　2019. 4. 13
27. 高賀山（岐阜）　2019. 6. 22
28. 田立の滝（長野）　2019. 9. 13
29. 信楽（滋賀）　2019. 11. 09
30. 中野さんミカン山（愛知）　2021. 4. 30
31. 東谷山（愛知）　2022. 5. 20

こうやってＰＷの歩みを見てみると、近県に 1000m前後の山が多いことがありがたいことです。また、歴史的街道や城址、テレビで取り上げられた名所へも積極的に出かけました。積極的にＰＷを提案してくれる、小島君（17 期）渡邉君（17 期）竹本君（21 期）に感謝しています。

10. 山伏ＰＷ　関東支部と合同開催

13. 揖斐川町而今庵でバーベキュー

10 年間の活動で、驚いたことは先輩諸氏のお元気なこと、当会最長老の森島さん（4 期）はＰＷ参加も多く、山道での確かな足取りは我々後輩のあこがれの的です。中野さん（8 期）も自家栽培

の夏ミカンを山ほどザックに詰めて登ってきて、山頂で参加者に分けてくださいます。また、森川さん（11 期）野村さん（12 期）ご両人の山に対する情熱は今なお盛ん、敬服いたします。

一方、山歩きが苦手な先輩諸氏の懇親会での豪快な飲みっぷりには若手はかないません。

悲しい出来事もありました。発足 5 年目の事務局長坪井陽典君（24 期）の急逝でした。当会設立の言い出しっぺでもあり、抜群の行動力とユニークな人柄で活動を引っ張ってくれました。若手の会員（といっても 60 歳前）の参加を募っていく上で欠かせない人材でしたので、残念です。

坪井さんを偲ぶ会(2016. 12. 07　たい信にて)

その後、事務局長を渡邉和文君（17 期）にお願いしました。細かい心配りのみならず、前記の 31 回のＰＷへの参加回数№.１を誇る活動家でもあります。支部代表としては大変助かっています。

2020 年からからはコロナウィルス蔓延による活動休止を余儀なくされ、2 年間はほぼ休眠状態でしたが、弱りつつある足腰に再度鞭を打って、活動を始めようと思っています。

この「やまざと」を目にされた近県にお住いの OB 諸君、是非とも東海支部にご入会いただき、一緒に山歩きや東海名所巡り、懇親会を楽しみませんか。会費無料、気が向いた時だけ参加、連絡はグループメールで行います。ご連絡をお待ちいたしております。

KUWV OB 東海支部メールアドレス：
kuwv-tokaishibu@googlegroups.com
川端携帯　090-1569-6047
渡邉携帯　080-2610-4107

「東谷山フルーツパーク PW」報告記

17 期　渡邉 和文

時：2022 年 5 月 20 日(金)

メンバー：L.　渡邉(17)、黒崎会長(22)、森島(4)、中野(9)、森川(11)、佐野(15)、川端(16)、小島(17)、竹本(21)、安井 (22)

2022 年 4 月、創立 10 周年の節目を迎えたもののコロナ感染者数は高止まりの様相。とは言え、1 年間全く活動が行えず、このままでは東海支部自然消滅するのではとの危機感も生じてきました。川端代表と相談し、十分に注意をして PW を行うことにしました。さて、久しぶりの行事でどこに集まるかと思案してもなかなか案が出てこず、皆さんにアイデア募集。すると森島さんから東谷山フルーツパークの提案をいただき即決。

10 時、東谷山フルーツパーク第一駐車場に集合。久しぶりの対面行事。遠路、黒崎会長にもお越しいただきました。

散策路を 30 分かけて登り、頂上展望台から濃尾平野、小牧山、名古屋駅ビル群などを眺め、南参道を下る。フルーツパーク内広場で距離を保って車座になり、各自持参の弁当を食べ、しばし歓談。その中の話題の一つ、38 豪雪の雪は下宿周辺で 5 月連休まで、大学構内では 7 月まで残ったそうです。話は尽きませんでしたが、13 時解散。

コロナ禍が続く中の開催でしたが皆さんのお元気な様子に励まされました。

近畿支部活動報告

11 期　加藤忠好

昨年秋に、コロナの一旦収束が見えたので、近畿支部の活動を再開した。しかし、一月末あたりから、さらに大きな波が襲ってきたので、活動を見合わせることにした。それでもすきまのようなチャンスで４回実施できたのは幸運だった。

加古川・平荘湖Ｐｗ

・実施日　2021/10/21(木)

とにかく集まろう。前号で下見について書いたが、人が少なくてラクチンな山を選んだ。

＜升田山山頂にて＞

当日は何の心配もいらない秋晴れ。大和武尊の母親の陵がある日岡神社に集合。随分なお年頃ばかりの集団、また、約１年半ぶりの山行きでもあるので、山行きの無事を祈った。（ここは安産祈願で有名な神社ではあるが。）神社からは、これから目指す升田山が見えていた。今では随分と低く見えるが、播磨国風土記には、天まで届く階段（八十の岩橋）があったと記されている山である。

神社からは宮前の古い町並みを眺め、ややこしい道ながら加古川の土手に出た。あのセルリアンブルーの水管橋を渡るのだ。人と自転車だけが通ることができる橋だけに嬉しい。そしてまた、橋の幅が狭いだけにとても長い橋に感じられた。

対岸の堤防に着き、土手上の道を川上に歩く。昔は洪水地帯、それだけに巨大な堤防である。堤防が山に接したところが升田山の登山口（八十の岩橋の基部）である。

下見ではバテてしまったので、今日はある作戦で登ることにした。目的地は山頂なので、各自の好きな速さで登ってもらい、早く着いた人から展望を楽しんでもらうことにした。ちょうど１ピッチ弱で登られる山なのが良い。これまで家に長く閉じ籠っていただけに、この岩は絶壁の岩を登っているように感じられた。

山頂からの絶景、特に北西方向の眺めが素晴らしい。眼下に平荘湖を望み、その奥には岩山が連なっている。深山幽谷を俯瞰しているような満足感がある。標高は約 100mであるにもかかわらず、この歯ごたえのある登りとこの絶景とで、参加者は充分満足してくれたよう。一方で、神代の人たちが、さらに天まで上っていた辛苦のほども理解できたようだ。絶景を楽しみながらの大休憩、昼食とした。

今度は、進路を西へ、升田山から尾根伝いを歩く。森の中の登山道であるが、時々「～号墳」の文字が・・・・。実はこの道はいくつも連なる古墳群のてっぺんにつけられた道なのだ。それを知っている人と知らない人とは、随分と冷気の感じ方が違うようだ。

古墳群の道が湖まで降りてきた。湖はのちほど立ち寄ることにして、きれいなトイレがあるウエルネスパークという施設に向かう。ここは、芝生広場はもちろんのこと、屋内プール、ジム、図書館、音楽ホールを持つ加古川市の自慢の施設なのだ。この施設で時間をつぶすこともできるが、残った時間を散策と湖面を眺めることに充てた。対岸右側の一番奥の山が昼食を摂った升田山だ。

＜平荘湖の湖面の向かいが升田山＞

平荘湖は堰き止め人造湖であるにもかかわらず、まるでカルデラ湖のような地形である。加古川からポンプアップし入れている水であるが、意外と澄んでいる。湖面手前ではのんびりと鴨が遊んでいた。平穏な風景、良き一日であった。

通勤時間になる前に電車に乗るべく、早めのバスで加古川駅に向かい、駅で解散した。

京見峠から西賀茂Ｐｗ

・実施日　2021/11/18(木)

何せコロナ下の計画でなければならない。よって、昼食は、タクシーで京都の山中の隠れ家へ乗り付け、ハンバーグを食べてから山歩き。突拍子もないアイデアが浮かぶ。ところが、これが好評で多くの参加者があり企画者も驚いたくらいだ。

京都鷹峯からの道は古い時代の鯖街道とも言われている。その奥の京見峠を越えた場所にレストランがある。トイレを調査していて店に行きついた。下見でもここの雰囲気が気に入ったので計画に入れたのだ。

集合場所は最終的には山上のレストランだが、いろんな交通機関を使って京都まで来ることも考え、ライトハウス前ＢＳを二次集合場所とした。ここにはタクシー乗り場もあるのだ。しかし、肝心のタクシーがなかなか来ないのには焦った。伊豫夫妻と高水間さんは足で鷹峯街道を登って来られたが、その方が早いくらいだった。恐るべし先輩たち！！

山中のくつろげるログハウスで食べるハンバーグもなかなかうまかった。食後のコーヒを楽しんでいると、「今日はどこから登ってきたのですか」と問いかけられた。

＜弁当を持ってこなくても良い山行き＞

山の格好をしていてタクシーできたのだから返答に困った。登りはタクシーでも下山は足で、しかも地図上にルートが描かれていないコースなので、それが救いだった。それだけに手ごわい下りであった。少し前にテニスで膝を痛めたという楠屋さんにとっては予想以上にきつかったようだ。

途中、五山の送り火の一つ、船形を覗き、西賀茂のゴルフ場に降り切り、正伝寺に向かった。

正伝寺の本堂は伏見城の遺構でもある。正面に比叡の山を見ての庭など、落ち着く寺だ。みなさんも気に入ってくれたよう。次に訪れたのは「科捜研の女」のロケ地、かつ京都三弘法の一つでもある神光院。ここの紅葉は見事だったが、正伝寺同様、西賀茂あたりはほとんど人がいない。

＜京都市街を眼下に＞

最後に上賀茂神社に立ち寄った。ここは相変わらず人がいたが紅葉は期待したほどではなかった。境内で伊豫さん寄付の羊羹で恒例の大中小に興じた。秋の日は釣瓶落とし。充実した日であったが、神社は閉門時刻を告げていた。

宝塚・大岩岳南麓Ｐｗ

・実施日　2021/12/9(木)

阪神間はどこも人が多い。ということで、例外的なここに決めた。何せ宝塚に住んでいる井上さんでもこの山域は知らないのだ。それだけにインパクトが薄い。よって目玉づくりを考える。地図上では神戸市、芦屋市、西宮市、宝塚市と並立しているが、実は神戸市と宝塚市が接している地点があるのだ。その貴重な市境の稜線歩きを目玉に・・・・・。

天気晴朗。駅の両端がトンネルという谷底にある武田尾駅に参加者全員が集合。両側の崖から200m上の台地までバスで登る。前回も、京見峠までタクシーで登ったし、最近はこの手合いが多い。まぁ、マスクをしながら歩くのだから、それも時節にあった高齢者の合理性ともいえる。

約15分で台地上の境野に着く。宝塚市といっても、この辺鄙な場所は取り残されたよう、昔ながらの里山風景が広がる。山地を利用した西谷公園でトイレ休憩。この辺りから徐々に里山から森林地帯へと景観が変わっていく。

また、ここには丸山湿原という兵庫県最大の湿原がある。その時節になると珍しい植物が見られるという。一方、この辺りはよく似た地形が多い

ので、迷い易い地帯でもある。その割には道標も少なく、湿原から西となると極端に人が少なくなる。

秋枯れの湿原を過ぎ、緩く登り 281mの三角点に着いた。土壌のせいか高い樹木がなく低灌木が広がる。それゆえに低山の割りに見晴らしが良い。中国自動車の向こうは裏六甲の山並みだ。その右手には、さほど高くない山々が見える。この一帯は中世に栄えた土地である。山々の下には、小さな盆地が点々とあるのだろう。そして清らかな小川が流れているのだろう。ここからの風景にそんな想像をしながら、昼食とした。紅葉にはまだのような、一方では紅葉を過ぎたような木々が景色に華やかさを添えていた。

さて、ここからが神戸市と宝塚市の市境だ。神戸市は背後に六甲山を持っているが、それだけでは大都市の人口を賄うには水が足りない。それゆえ武庫川に水を求めたが、すでに下流域で水利権を持っている西宮などが許すはずがない。そこで神戸市は、苦肉の策として武庫川対岸の支流に目をつけここに水源ダムを建設した。大正時代の話だ。それゆえ、こんなとんでもないところに宝塚との市境ができたのだ。道に沿って神戸市の標石がいくつも見られた。宝塚市の標石は見つからなかった。闖入者は神戸市といわんばかりに。

＜トトロに出てくるような道もあった＞

景色の良い緩い丘陵地帯を歩き、道に迷うことなく無事急崖を降りた。崖の下にはトトロに出てくるような森のトンネル道があった。東山橋から今日の終着点の道場駅へは約 20 分だった。

京都・長尾山Ｐｗ
再京都・長尾山Ｐｗ

・実施日　2022/4/21(木)　雨天中止
・実施日　2022/5/12(木)　雨天中止

網引湿原Ｐｗ

・実施日　2022/6/2(木)

４月５月と雨に見舞われ、活動中止となったが、コロナがまだまだ頑張っていたので、残念な気持ち半分と、安堵が半分だった。

＜網引湿原での憩い＞

で、今回は再々長尾山Ｐｗも考えたが、暑い季節、その中でのマスクをしての山行きもどうかと思った。ならば視点を変え、大阪からはやや遠いが珍品のトキソウを見に行くことにした。

場所は東播磨西北の加西市の南部。そこはかつて山に囲まれた盆地状の森であったそうだ。開発のために森を伐採したものの、湧水があり利用をあきらめたところ湿地になったという。爾来、周辺の土地では絶滅した珍しい動植物がここに残存する結果となり、逆に貴重な湿原といわれ今日に至っている。

加西市は古墳が多いなど古代から栄えた土地であるが、大河を持たないため、中世が止まったような土地柄である。事実、水は姫路の川から水を買っているので、水道代が高いと聞いている。

１時間に一本の北条鉄道。ここの景色ともあわさって、気ものんびりしてくる。駅からカッパ封じのお地蔵さんや糠塚山の麓の麦畑などを見ながら歩いていると、突然三宅さんからの携帯が鳴った。車ならば、高槻からは半分の時間で来ることが出来たそう。少し前から途中にある公会堂の駐車場で待っているとのこと。急がねば。

湿原の入り口で靴を洗う。外来生物を防ぐためだ。トキソウが盛りの頃で足元に咲いている。こんなに咲いているとどこにでも咲いている花かと錯覚してしまいそうなくらいなのだ。ノハナショウブも咲いていた。ハッチョウトンボも飛んでいた。このトンボは思ったよりも小さいので、なか

なか見つけられない人も居た。ハエを探す気持ちでいるとすぐに見つけられるトンボである。

なんとなく出ている水、この湿原の水もそうであり、さらに半日村のような盆地状の地形が水はけを悪くしているのだろうか。それ故か湿原の山域に入るとやや涼しい。湿原だから蚊がいるだろうと思って、蚊よけ対策をしてきたが、不思議と誰も刺されることはなかった。

湿原をグルグルとまわり観察もしたが、休憩所で、のんびりとコロナ中のいろいろな話ができた方が楽しかった。何を話したか忘れたが、この仲間といるのが愉快なのだ。堺市から参加の畔山さんとは2年以上ぶり。考えてみると、それ以外の人でも、コロナや雨で山行きが実施されなかったので、全員が久しぶりだったのだ。

湿原の森の外に出ると熱気が襲ってきた。

歩いた距離は約１万歩ぐらいであったが、日頃歩いていなかったので少々疲れた。それでも晴天に恵まれた良い一日、心地よい疲れだった。

近畿支部の活動まとめ（2021 年秋以降）　　名前に添字のある方は女性、〇は期です。

2021/10/21(木)	**加古川・平荘湖Ｐｗ**　（企画　加藤、高村 c）　参加者 11 名
金岩⑤、伊豫⑧、篠島⑧、伊豫 a⑩、加藤⑪、加藤 s⑪、赤地⑫、赤地 k⑭、宇野 a⑮、高村 c⑮、三宅⑮	
ＪＲ日岡駅～日岡神社～水管橋～升田山～ウェルネスパーク～平荘湖＝(バス)＝ＪＲ加古川駅	
2021/11/18(木)	**京見峠から西賀茂Ｐｗ**　（企画　加藤）　参加者 11 名
伊豫⑧、高水間 t⑧、伊豫 a⑩、加藤⑪、加藤 s⑪、楠屋 t⑭、宇野 a⑮、鈴木⑮、高村 c⑮、三宅⑮、井上⑯	
京見峠～Ｒはせがわ～氷室分れ～秋葉山～船山～西賀茂～正法寺～神光院～上賀茂神社	
2021/12/9(木)	**宝塚・大岩岳南麓Ｐｗ**　（企画　伊豫、加藤）参加者７名
金岩⑤、伊豫⑧、伊豫 a⑩、加藤⑪、加藤 s⑪、三宅⑮、井上⑯	
ＪＲ武田尾駅＝(バス)＝境野～西谷公園～丸山湿原～三角点～大岩岳分岐～東山橋～ＪＲ道場駅	
2022/１月～3 月	コロナが再蔓延したため活動を停止
2022/4/21(木)	**京都・長尾山Ｐｗ**　（企画　加藤）雨天中止
2022/5/12(木)	**再・京都・長尾山Ｐｗ**　（企画　加藤）雨天中止
2022/6/2(木)	**網引湿原Ｐｗ**　（企画　加藤）　参加者７名
伊豫⑧、伊豫 a⑩、畔山⑪、加藤⑪、加藤 s⑪、宇野 a⑮、三宅⑮、	
北条鉄道網引駅～カッパ封じ地蔵～糠塚古墳～南網引公会堂～網引湿原　（往復）	
2022/10/28(金)	**磯城・山邊Ｐｗ**　（企画　加藤）　参加予定 12 名（報告は次回で）

＜京都三弘法の一つ神光院の見事な紅葉：京見峠から西賀茂Ｐｗ＞

第２５回　野沢温泉スキー合宿２０２２

11 期 青柳 健二

・**実施日**　2022 年 2 月 25 日（金）～27 日（日）

・**参加者**　（４期）佐藤・（11 期）青柳 ・
（22 期）黒崎 ・（26 期）畠山 ・
同奥様　　5 名

今年のスキー合宿は、12 月末に 2 月 4 日から 6 日で開催案内を出すも、新型コロナウィルスの感染拡大が著しく、1 月末には「蔓延防止等重点措置」が長野にも発令され、野沢温泉村では新規感染者が 36 人にも及ぶ事態となり、実施日を 2 月末近くに変更して実施しました。

但し、参加者は 1 月の段階で参加表明をされていた佐藤さん・黒崎さん（25・26 日）に加えて、地元の畠山夫妻（26 日の日帰り）と幹事役の私の 5 名に留まりました。

それでも、第 25 回という節目の年でもあり、「オミクロン株に負けるな、スキーで元気を創ろうぜ！！」と実施を決行したのでした。

・２月２５日（金）晴れ

何時ものように朝 7 時半過ぎに自宅を出て、大宮駅 9 時 9 分発の上信越新幹線はくたか 555 号に乗り 10 時 32 分飯山駅着。10 時 45 分発の野沢ライナーに乗ると、佐藤さんが乗り込んで来た。11 時 5 分には中尾バス停に着き、11 時 12 分には宿“ふるさと”に入る。

佐藤さんと 2 人で 12 時 15 分にはスキーに出発。リフト券は、2 日券（7700 円也）とした。

新長坂ゴンドラで一気にやまびこ駅へ。去年と同様に感染対策で 10 人乗りのゴンドラを 4 人乗りに制限している。13 時にはレストハウスやまびこへ入って昼食とする。先に食べていた黒崎さんはスキーに出る。本日のランチはビーフカレー（1200 円也）

13 時 40 分にスキー開始。やまびこＡコースを 3 回滑る。途中で黒崎さんと合流。今年は雪がタップリあり好天の中滑り易い。ただ今シーズンの初スキーで調子は今一歩上がらない。

喫茶ダンテで休もうと思ったら、ダンテがクローズしていた。既に 15 時となっていたのだ。レストハウスに戻って少し休んで、スカイラインを滑り降りてスキーを終えた。16 時には宿着。スカイラインの滑降では 2 回転んだ。好天の中でのスキーには満足したが、調子を整えるには時間がかかりそうだ。日頃の運動不足を反省する。

宿の内風呂と美味しい夕食を食べて、疲れを癒す。本日のメインは天婦羅で美味かった。

食後は部屋で佐藤さん・黒崎さんと歓談。今年は金沢でも大雪で、雪かきに苦労したとの事。この日は、疲れを取るために早めに就寝とした。

・２月２６日（土）快晴

黒崎さんは、“観音坂いちえ”の仕事があるので、早めに朝食を食べて 7 時過ぎのバスで帰宅された。

8 時 30 分には畠山夫妻が来館。8 時 50 分にはスキーに出る。リフト券売り場が混んでいて、9 時 15 分にリフトに乗るが、次の長坂ゴンドラでも長い列で、何とか毛無山山頂まで登ったら、快晴の下、絶景の世界が広がっていた。

毛無山 1650mの標識の横で写真を撮る。妙高山が美しい。やまびこＡコースの入口からは日本海まで見渡せた。この景色が野沢の醍醐味である。

佐藤さんは、懐かしの湯の峰ゲレンデで滑って見たいと、先に別れた。

やまびこＡコースを 3 回滑って、喫茶ダンテで休み、11 時 30 分には早めの昼食を取る。

2 月の末近くで学生が多く、レストハウスでは席の確保には苦労したが、何とか席を確保してラーメンとプリンを注文して昼食とした。（1250 円也）

12 時 30 分にスキーへ。やまびこＡコースを 3 回滑る。吾輩にとってはこのゲレンデがベストコースだ。最初の緩斜面からスピードに乗って爽快に滑り、急斜面の上で一息ついてリフト下まで一気に滑りおりる。このバランスが絶妙なのだ。

佐藤さんが滑りに行った湯の峰コースがどうなっているか、確認の為に降りてみることにした。降りて見ると、湯の峰コースの入口にはロープが張られており滑ることができない。水無ゲレンデを滑り降りると、そこは牛首コースの入口である。吾輩にとっては絶壁のような急斜面である。佐藤さんは、どう滑ったのであろうか。
運が良いことに、スノーモービルに乗った監視員らしき方がいて、2 人ならモービルでパノラマコースのリフト下まで乗せてくれると言う。畠山さんには牛首コースを降りてもらい、吾輩と奥様はモービルに乗せてもらうことにして、日影ゴンドラの降り口で待ち合わせることにした。
吾輩にとっては、八方尾根の黒菱ロッジでスキーを盗まれた時から 2 度目のスノーモービル体験であった。

15 時にレストハウスに戻って、ホットする。缶ジュースを飲んで疲れを癒した。
15 時 30 分にスカイライン連絡リフトに乗り、スカイラインコースを降りる。さすがに足腰にガタがきて、途中からたぬきコースに入って下った。たぬきコースも初体験で、超長い緩斜面だが結構スピードが出る。それでも怪我も無く滑り降りられたのでホットした。16 時 10 分には宿に戻り、名物の甘酒を飲んで一息ついたのであった。
この瞬間のためにスキーをしている感覚で、喜びが心に染みわたるのであった。

この日は、学生と思われる若者たちが多く、夕食時には食堂は 40 人近い人で賑わっていた。
そこで、畠山夫妻の分も追加をお願いし、一緒に夕食を楽しんだ。相変わらず一工夫された料理が並び美味しくいただいた。

畠山さんから、北越市の新聞に植木毅さんの訃報が載っていたと伺った。85 歳だったとの事。
2019 年の 1 月に山西さん夫妻を誘い、植木さんの日本アルペンスキー学校でスキーを楽しんだことがある。植木さんは数年前から脳梗塞を病んでいてご本人には会えなかったが、弟子達がスキー学校を運営していてスキーを教わった。植木さん直伝のアルペンシュティムターンである。
レッスンの後、無圧雪の林間をコーチの後について滑ったが、すんなり滑れたのにはビックリしたものである。植木さんとの関わりは、スキー合宿 20 周年記念号で述べており、ここでは多言しないが、吾輩がスキーにのめり込んだ切掛けになったものであり、何とも言えぬ寂しさに襲われた。

畠山さんとは、19 時 30 分まで楽しく歓談して別れた。疲れが溜まっており、21 時 30 分には床についた。

・２月２７日（日）小雪時に大降り

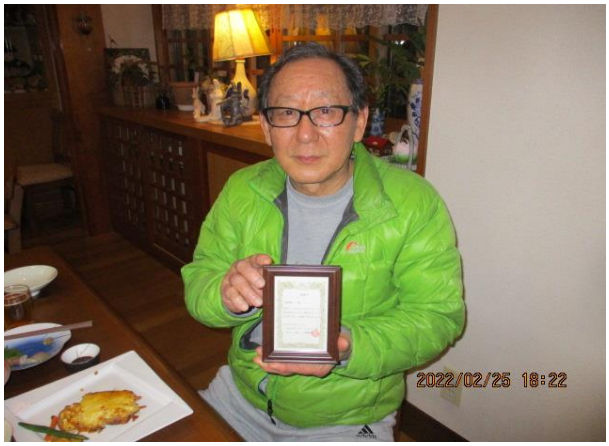
本日は天気悪し。好天の中を 2 日間タップリ滑ったので、この日はスキーを止めて、昨年と同様に野沢の温泉街を散策し帰宅することにする。
9 時 40 分過ぎに宿を出た。

中尾の湯に来ると雪が本降りとなり、風情がある。大湯通りにあるジャム工房で、ジェラードとおやきを食べる。冷たさと暖かさが混在し、なんとも言えない味わいで不思議である。

近くの食堂で早めの昼食をとり、13 時過ぎのバスで帰途についた。

さて、長々と 25 年間にわたり開催して来たスキー合宿であるが、最近の参加者数からして合宿としての役割は終了したと思われる。今後はスキー愛好者の「スキーの会」として野沢や志賀高原等でスキーを楽しもうと思う。

KUWV会長の黒崎さんからスキー合宿幹事について感謝状を頂きました。



皆さま、長い間どうも有難うございました。

感謝状

青柳健二　殿

貴殿の２５年の永きにわたるスキー
合宿幹事のご尽力に御礼を申し上げ
当会を代表して感謝の意を表します

令和４年２月２５日
金沢大学ワンダーフォーゲル部
OB 会　会長　　黒崎敏男

＜御礼の言葉＞

青柳さん、長年にわたりスキー合宿のお世話をしてくださいまして誠にありがとうございました。

民宿「ふるさと」での宿泊の際などでも一人一人への細かな内容にも気を配っておられる姿が印象に残っております。

また、スキー教習のビデオも何度か見させて頂きましたが、本当にスキーが好きなんだなと思わずにいられませんでした。

このイベントは２０周年記念誌に紹介されているとおり、多くの会員の皆様やそのご家族に参加、協力して頂きながら継続してきたものですが、私が参加するようになってからの数年の間でも年を追うごとに、ごく限られた方々のみが参加する寂しい会となってしまいました。

本文にあるとおり、一旦合宿としては締めくくられるということですが、これからも体の続く限り、スキーを楽しんで頂ければ幸いです。

会を代表してお礼申し上げます。

OB 会　会長　黒崎　敏男

2022年小屋作業

22期　黒崎敏男

【日程】

①春　下見2022年4月27日（水）

本番　　5月14日（土）

②秋　中止

【参加者】

春　下見　坂尻忠秀（15期）、久冨象二（20期）

黒崎敏男（22期）

本番　深田　進（20期）、久冨象二（20期）

黒崎敏男（22期）

現役

【1】相変わらず険しいアプローチ

高桑碑のある場所は上部からの大規模な土砂崩れによって幅30m高さ3m程度が岩石で埋まっている状態で変わりなし。

例によって、つり橋手前の500mくらいの間は足元が悪く、草に隠れて見えないが数十m下まで切れ落ちた場所もあり慎重に歩行する。

難所のへつりは水量計の手前までもがけ状になってしまっており、下見時には増水して近寄ることもできなかった。本番も通過不能と判断しう回路を通る。

今回は道が歩きやすかったので片道でダムから2時間程度であった。

【2】小屋の状態

周囲はいつもどおり草ぼうぼうではあったが、外部内部とも特に目に付く異常はなく、今のところ安全性に問題はないと見られた。屋根の腐食は進んでおり、塗り替えが必要な時期か。また、ホースに複数亀裂があるため補修が必要。奥の右側の床板の一部の腐朽がやや進行してきた。

【3】草刈り

今回、川原で小屋掛けをして過ごす方々が滞在されていて、その中の1人が石川県の職員で、連絡先をお伝えした。高三郎登山道の修復に関心があるとのこと。う回路とへつり部分から小屋まで今回も草刈りを行い、急坂にステップを刻むなどして少しでも歩きやすくする。

【4】帰路

う回路の尾根越えの道を行ったが、それぞれそれなりにしんどく、尾根越えの道については引き続き草刈り、目印などのメンテを行う必要はある。

【5】来年春に向けて

小屋については仮に行うとしても壁の補修や屋根の塗り直し、ホース修理程度を実施すればよいとみられる。

高三郎登山道については、登山口まで偵察したが、金山谷までは特に問題はないものの、谷に渡してあった丸太とロープが使用不能になっているため、増水期は通過が難しいかもしれない。

また、残雪期を中心に多少の登山者が入山している模様で、その記録によると笹が復活してわかりづらくなっている個所があるようなので、希望者があり、可能であれば中間部の草刈りを実施できればと考える。ただし、2泊を要する可能性があるので事前によく検討してみたい。

次回は5月連休明けを予定しており、今回は現役3名の参加もあり、久しぶりに賑やかになったところです。参加可能な方はご計画方、よろしくお願いいたします。

現役より
白山登山

R4 年度部長　水谷冠太

2022 年 8 月 8 日、部活の活動として白山に登ってきました。コロナウイルスの影響で大学からの許可が下りないため、テント泊等の活動は出来ず、日帰りでの登山となりました。近年、コロナウイルスの影響でなかなか部としての活動が制限されていたので、石川県金沢市に住んでいながらも白山に登ったことのない部員も多くとても思いで残る山行になりました。今回は OB、OG の方々に金銭面での支援を受けて、バスを手配し全員バスで登山口まで向かいました。本当にありがとうございました。

当日の予定は以下のように活動しました。
5：30　杜の里イオン集合
7：00　登山開始
11：30～12：00 頃　登頂
17：00　下山完了
18：30　杜の里イオン　解散

ルートは、班によって異なり、以下のようなルートを使いました。

１　別当出会→砂防新道→黒ボコ岩→室堂→御前峰　（ピストン）

２　別当出会→砂防新道→黒ボコ岩→室堂→御前峰→室堂→黒ボコ岩→観光新道→別当出会

３　別当出会→砂防新道→エコーライン→室堂→御前峰→室堂→黒ボコ岩→砂防新道→別当出会

４　別当出会→砂防新道→黒ボコ岩→室堂→御前峰→お池巡り→室堂→御前峰→室堂→黒ボコ岩→砂防新道→別当出会

当日の天気は曇りでした。バスの中から見る白山市街の天気は晴れていたため、少し期待をもって登山口に向かっていましたが別当出会につくと上の方は雲がかかっていいて、山の天気の厳しさを改めて感じさせられました。

別当出会　2022.8.8　撮影

別当出会からは 1 班 5～6 人、全 6 班で行動しました。砂防新道から登った班は中飯場から少し上で霧の中になり、観光新道から登った班は最初の急坂を終え、稜線に出る手前くらいで、霧の中の世界になりました。その後も各班が決めたルートで登りました。体調不良者が数名出てしまい、ほんの数名だけは登頂とはいきませんでしたが、ほとんど部員全員が登頂することができました。途中、とてもつらそうな部員もいましたが、班全体で励ましあいながら登っていく姿も見られ、部全体の中も深まったと思います。体調不良者が出た班も協力して荷物を持ったり助け合ったり、休憩をこまめにしたり、適切に行動できたと思います。

登頂時は霧の中でしたが、達成感に満ち溢れていました。登頂後は、山頂お池巡りを試みた班もありましたが、キリでなかなか見えませんでした。

御前峰　2022.8.8　撮影

登頂後、下山しているといきなり霧が晴れてきました。室堂からは、山頂もくっきりと見ることができました。

室堂　2022.8.8　撮影

下山時の弥陀ヶ原や観光新道、砂防新道などでも眺望が望めたり、たくさんの高山植物なども見られ、とても楽しめたと思います。

室堂直下から見た弥陀ヶ原　　2022.8.8　撮影

下山でも疲れた部員を励ましあいながら、全員が無事に下山することができました。

終わりに

4月から、たくさんの新入生が入部してくれて、8月の白山登頂を目標にして、毎月、部として活動してきました。4月から、登山の基本的な装備や知識を勉強したり、医王山、奥獅子吼山などで実際にトレーニングを重ねてきました。コロナ渦前の部活を知らない3年生まで部員だけでの活動が多く、分からないことなどもありましたが、今回の白山ではほとんどの部員が登頂出来てよかったと思っています。また、体調不良で登れなかった部員への対応も適切に行うことができ、大きな事故やけがもなく全員が無事に下山できたこともよかったと思います。
また、山の天気の移り変わりの早さを肌で感じたり、高所の気温の低さを肌で感じたりと多くのことを実際に学べたと思います。

残念ながら、山頂からの景色は見ることができませんでしたが、下山中に素晴らしい景色を見ることができ、「また登ってみたい」「違うルートから行ってみたい」などという気持ちにもなれ、モチベーションアップにつながったと思います。

これからの活動では、大学からの規制も緩まり、テント泊の活動なども可能になると思います。そうなったら、経験者を中心に教えあいながら、どんどん活動を活発にしてきたいと考えています。北アルプスや中央アルプス、南アルプスなどの景色は、白山にはないような素晴らしい景色があるので、そういった場でも活動していきたいと思います。

今回、OB、OGの方々にはたくさんの支援を頂き活動させていただきました。本当にありがとうございました。

同期会便り
平成・令和　秀麗富岳多景

9 期　吉田洋次郎

9 期千葉組と称する隣組の我々（伊藤俊成、伊藤博道、清水一、鍋島武、吉田洋次郎）は富士山の遥か東方の千葉県北西部に住んでいる。この 5 人と東京・八王子の山中重夫は気軽に飲み会やゴルフをいつもやっていた。2012 年の忘年会で、「たまには山に行こう」という話題がでて、山行もやりはじめた。

9 期千葉組の仲間は今まで誰も富士山の頂上に足跡を残していなかった。ただ、山中が百名山制覇をしているので当然富士山には登っている。

さて、鍋島の富士登山を記念して今まで千葉組が登ってきた近隣の山などから撮影した富士山を写真集に纏めた。

【筑波山
平成 25 年（2013）3 月 22 日】

前年の忘年会で出た話題「たまには山に行こう」をさっそく実行へ。『西の富士　東の筑波』と称される筑波山登山であり、このメンバーによるパーティ結成は KUWV を卒業してから初めてだった。

筑波山神社にて安全祈願

筑波山から美しい富士山を遠望することができるのだが、今回の山行では、残念ながら富士山は姿を現さなかった。

【富士宮口五合目・宝永火口にて
平成 26 年（2014）9 月 4 日】

吉田が富士宮口五合目から宝永火口までをトレッキングした。

宝永火口

宝永火口は大きなすり鉢状で、その縁から山頂を望んだが、剣が峰は見えなかった。

下山後、御殿場にある御胎内温泉に立ち寄って風呂に浸かり、冷えたビールで疲れをいやした。

【高畑山、倉岳山（大月）にて
平成 26 年 (2014) 11 月 13 日】

千葉組の 4 人（伊藤俊、伊藤博、鍋島と吉田）と山中が鍋島リーダーの計画に乗っかり、山梨県大月の秀麗富岳の高畑山と倉岳山の山行に参加した。

高畑山にて富士山を背に

山行にはもってこいの天気で新雪をまとった富士山が美しい。高齢者だが 70 歳前後でまだまだ若い。コースタイム通りで歩くことできた。

高畑山からの富士山

【岩殿山（大月）にて

平成 29 年（2017）4 月 24 日】

今回も千葉組の 4 人（伊藤俊、伊藤博、鍋島と吉田）と山中で JR 中央線の大月駅にほど近い岩殿山に登った。

“稚児落とし”と名付けられている難所も通過し、無事下山した。しっかり汗をかいたので大月駅近くの居酒屋で電車の時間を気にしつつ飲んだ“昼酒”の旨いこと、旨いこと。

【高松山（丹沢）にて

令和元年（2019）11 月 16 日】

今回は千葉組 3 人（伊藤俊、鍋島と吉田）と山中で丹沢の高松山に挑戦した。晴れ男四人組は今回も最高の天気に恵まれた。

写真撮影をお願いしたお姉さんが気を利かせて足が長く写るように撮ってくれたようだ。
すすきの穂が風に揺れ、秋の訪れを告げていた。

下山後、小田急新松田駅近くの居酒屋で恒例の飲み会をして帰路についた。

【熊倉山　生藤山（奥多摩）にて

令和 2 年（2020）2 月 17 日】

生藤山にて

千葉組の３人（伊藤（俊）、鍋島、吉田）で、中央沿線から、熊倉山～生藤山を歩いた。厚い雲に覆われた一日であったが、最後の生藤山を下ろうと腰を上げた途端に、なんと富士が顔を出した。3 人はテンションを上げて、軽快に下った。

下山後の飲み会は、おおいに飲もうとの考えが全員一致した。そこで這ってでも帰れる（？）自宅に近い西船橋で挙行した。

【鍋島が初めての富士登山
令和４年（2022）７月 25・26 日】

（写真上）
初日：登山日和の富士山

（写真左）
二日目：雨の剣ケ峯

令和４年（2022）７月 25 日に喜寿の鍋島が「はじめての富士山」に挑戦した。

初日：山の神（富士山）は、単独行で高齢かつ新参者の鍋島を、心優しく富士宮コース元祖７合目まで案内してくれました。

二日目：朝３時、少雨だが、「登れる」と判断して、ヘッドランプをつけて出発。頂上が近くなるにつれて雨脚は強くなり、日本一高い剣ケ峯頂上では、日本一最悪の強雨とガスで展望ゼロ。

浅間神社奥宮で、記帳（70 歳以上）とさい銭で、安全と健康を心からお祈りした。安全を考えて、登りと同じコースを下山。

しかし初日には優しかった山の神はどこに行ったのかな。下りの天候はさらに悪化。頭上からではなく水平方向から「ドカーン」と雷も加わった。八合目の小屋では、女性や子供は中に招き入れてくれるが、男たちは小屋の軒先の壁にへばりついている。

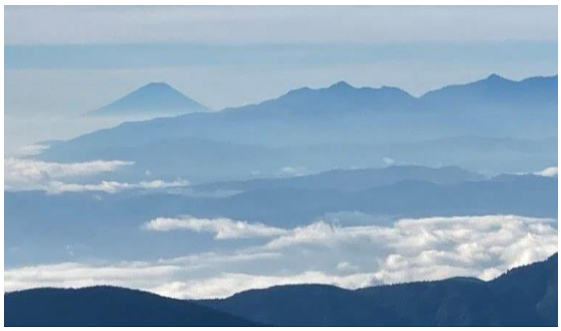
雨と雷に激励（＝脅迫）されて駆け降りた。五合目のバス停について、一安心…とはならなかった。雨で道路通行止めのため、バス運休。う回路経由で、無事帰宅。

（『鍋島は雨男』とは言わないでください。この山行の一週間後の北アルプス・常念山脈の３泊４日は雨具いらずだったよ。）

【常念岳山脈縦走
令和４年（2022）７月 31 日～８月３日】

中房温泉（泊）～燕岳（泊）～大天井岳～常念岳（泊）～一ノ沢を、鍋島が山仲間と二人で縦走。

一週間前には土砂降りの雨の富士山も晴れ渡り、すばらしい姿を見せている。富士をはじめ、北アルプス、南アルプス、八ヶ岳の絶景を眺めながらの縦走は幸福感満杯の快適な山行だった。



（写真上）
富士山と南アルプス（８月３日常念岳にて）

（写真左）
槍ヶ岳（８月２日大天井岳にて）

卒業後 50 数年が経ってもこうして気の合った仲間たちと共通の時間を過ごせることが人生の財産となっています。

最後に、本稿は鍋島の協力で纏めることができました。

ご覧になっていただきありがとうございました。

以上

3年ぶりの15期会、金沢で

15期　松林　知一

3年ぶりに開催することができた15期会のご報告です。今秋、金沢に13人が集まり、オンラインではない対面の懇親会で「出会い50年」を祝い旧交を温めました。

●開催日　2022年10月9日（日）～10日（祝）
●開催地　金沢市
●日　程
【10/9】金沢駅（集合）→大乗寺丘陵公園（散策）→前田家墓所（見学）→金沢湯涌江戸村（見学）→銭がめ（宿泊・懇親会）
【10/10】銭がめ（出発）→石川県立図書館ビブリオバウム（見学・休憩）→国立工芸館（鑑賞）→坂尻別邸材木荘（昼食）→鼠多門・玉泉院丸庭園（見学）→金沢駅（解散）
●参加者　上馬康生・敏栄、宇野潔・篤子、奥名正啓、坂尻忠秀・知恵、鈴木良紀、祖父江直久、佐野哲夫、舟田節子、松下重人、松林知一

15期は年1回、同期が直接顔を合わせる一泊二日の懇親会を30年以上、毎年欠かさず持ち回りで開いていました。それがこの2年間、コロナ禍で開催できなかったのです。

当初は2020年11月に開催の予定でした。2020年は、われわれ15期が初めて出会って（金沢大学に入学してワンゲルに入って）ちょうど50年という節目の年でした。前年の2019年8月、三重県桑名市で開かれた15期会では当然、次回は原点の金沢で盛大に50周年を祝おう、という話になったのですが･･･

（写真＝会場の銭がめ前で。50年前、芝原からブナオ峠へ歩いた長いロードの途中にある）

せっかく予約した宿をキャンセルすること2回。この2年間の空白は、われわれ全員が60歳代から70歳代になったという時間の経過だけではなく、15期の中心的存在であった主将の間所新一を失うという深い悲しみに見舞われました。もはや「今年がだめなら来年に延期しよう」などとは簡単に言えず、一日一日を大切に過ごさなければならない、という現実を痛感させられたコロナ禍だったのです。

3年ぶりの15期会は、コロナの第7波がいまだ収束を見通せない中で開催案内を送るというタイミングになったこともあり、メンバーからは「家族に反対された」とか「コロナ感染の後遺症で体調が戻らない」など欠席の連絡が相次ぎ、例年に比べると参加者が少なかったのは残念でした。

今回の企画の目玉は、今年7月にオープンした新石川県立図書館＝**写真・上**＝と、東京から金沢に移転してきた国立工芸館の見学でした。どちらも2020年には開館しておらず、2年延期になったおかげで行くことができました。

特に新しい県立図書館は旧工学部跡地に整備されたもので、跡地が長い間廃墟となっていたことに胸を痛めていた工学部出身のメンバーにとっては感慨もひとしおのようでした。昔の工学部をしのぶ遺構はまったく残っていませんが、敷地の境界に植えられた何本かの桜の古木に、「この木には見覚えがある」との声も上がっていました。

3年ぶりの再会というのに、幹事長を務めた松林の日頃の行いが悪かったせいで2日間とも天気は雨。二日目の昼食は国立工芸館前の芝生広場で弁当を広げる予定でしたが急きょ、材木町の坂尻別邸に変更することになりました。これまでも坂尻別邸にはずいぶんお世話になっており、金沢での50周年記念15期会にふさわしいフィナーレになったと勝手に思っています。

次回は来年、宇野が幹事を務め兵庫県の淡路島で開催することになりました。どうか来年はメンバー全員がそろいますように。

今年も花の旅

8 期　篠島益夫

今年もコロナとの共生を余儀なくされて運動不足による体力ダウン、妻の新たな変調による経過観察と続行する検査が加わって動きにくい１年でした。孫達との数年来の「花の白山ツアー」も部活やアルバイトなどの孫達の都合や天候に乱されて今年も実施出来ませんでした。

私がいつまでも白山登山に付き合える体力ではないのですが孫達は気が付いてくれません。

残り少ない人生終盤になってコロナに命の余白の活動を奪われるのには腹が立ちますが何ともできません。同じ気持ちをお持ちのワンゲル仲間も私だけではないでしょう、そんな気分をどなたかに話したら、「ぜいたく言うな、今まで元気に暮らせた事に感謝しなさい」と言われてしまいました。

こんな有様ですから、昨年に続き今年も遠方と長期間の旅を避けて出来るだけ近辺寄りでの花の旅を心掛けていました。しかし、昨今は距離と時間とコストが比例しない時代ですからコロナを避けながら時間とコストを考えて以下のようなささやかな花の旅をしました。

2022・0308～09　丹波・丹後の旅

0308　例年この時期に出かける丹波篠山市追入のセツブンソウは見頃でしたがイチゲは蕾が膨らみかけたところでした。

兵庫県丹波篠山市追入・セツブンソウ

この後、舞鶴の高水間宅で夫妻と合流して、まだ雪の残る宮津市の真言宗成相寺からの天橋立の展望や本尊の聖観音菩薩を見て伊根湾展望所から伊根温泉の民宿へ。温泉を堪能してから注文のブリシャブを、雅号を持つおかみさんの書と絵を見せて貰いながら堪能しました。

0309　伊根湾クルーズや丹後半島間人の静御前ゆかりの神社などを巡りました。

0405～0408　伊豆のさくらと河津七滝巡り

今年は関西ではなく伊豆で桜を愉もう、という趣旨で今回も伊豆高原の９期山中氏の別荘を基地に伊豆のさくら巡りを始めました。伊豆は丁度、さくらが満開の時期で山中別荘の「仙台しだれさくら」も伊豆高原のさくら並木も大室山桜の里も今までにない伊豆のさくらを満喫しました。

6 日は各地のさくらを巡りながら河津温泉に宿泊、翌 7 日は河津温泉から出発して思いがけない急登もある河津七滝巡りを終えました。伊豆滞在中は好天に恵まれ、山中氏お薦めの料理店でのメニューも堪能できました。

0405 伊豆高原山中別荘・仙台しだれ桜

0413　京丹後市・花の旅

高水間さんから近くで福寿草自生地はないかという話がありました。調べていたら丹後の山歩き HP の中に自生地の情報を得て、その近くと思われる京丹後市の小野小町資料館に問い合わせたら詳しいと思われる方を紹介してくれました。

その方に連絡をとり自生地へのアクセス図を頂いたので 3 月に引き続き丹後半島に出かける心算で舞鶴の高水間さんに連絡をとると他にも如意寺のシャクナゲやミツバツツジも有るから纏めて行こうとなった。自生地紹介者の情報と天候を見て 4 月 13 日早朝から舞鶴に向かった。

福寿草自生地は道が複雑というので高水間車に乗り換えて出発した。小町公園から先は車がはみ出しそうな怪しげな道であったが目当てのブナハウスに到着、付近を捜していると程なく満開の福寿草群生地に出くわした。かなりの広さと株数もある紛れもない福寿草自生地であるが、マイナーな場所と見えて他に人もいない。ブナハウスは周辺の山ハイカーの為の休憩所とトイレらしい。残雪で今は行けないがここから歩行で細川ガラシャ夫人隠棲の地にも行ける事が分った。ならば、3月9日の静御前に続いて今日は小野小町ゆかりの小町公園、ガラシャ夫人のゆかりの地（丹後の三大美人という事になっているらしい）にも立ち寄る予定となった。

京都府京丹後市五十河・福寿草

同じ京丹波市久美浜の真言宗如意寺はシャクナゲとミツバツツジが見ごろで他にも野草を大事にしている大伽藍であった。

京都府京丹後市久美浜如意寺・シャクナゲ

如意寺を後にカーナビも通用しない山道に分け入り味土野の細川ガラシャ夫人隠棲地に着いた。

今は無人の谷間であるが、小さな集落跡が分る丘にその記念碑は立っていた。明智光秀の娘ゆえに父が秀吉に敗れて夫人にも危機が迫ったが、夫の細川忠興が味土野に隠れさせて難を逃れた話は多くの小説にも出てくる。この旅で丹後の三大美人ゆかりの地の詣も終わった。

0422　我が家のかざぐるま（自生種）初開花

昨年6月県内のかざぐるま自生地保存会の指導のもとにかざぐるまの挿し芽をして育てていましたが、6株が根がついたようなので昨年暮れに一株ずつ別の鉢に移植してメンテを続けて順調に新芽を出して伸び始めていました。

そのうちの1株に花芽が付いて4月22日には開花し始めて嬉しい限りです。

0425　差し芽から初めて咲いたかざぐるま

0608～0612 霧多布・厚岸・釧路湿原・花の旅

霧多布・厚岸湿原は2021年に国定公園に指定された。しかし国立公園の釧路湿原と共に釧路・根室・十勝地域を仕事で永らく担当した私も湿原内の動植物までは当時は行動が伴わなかった。

0608　Peach125便の着陸後の移動時間を考えて昼食は機内で済ませて空港から真っ直ぐに霧多布岬へ向かった。45年余り前には家族でよく来た岬だったが随分整備されて歩き易くなっていた。北海道では既に絶滅したとされるラッコが近年ではこの岬で生息始めたという話を聞いていたので白花エンレイソウやハクサンチドリ等の植物を気にしながらラッコを求めて双眼鏡で探す。簡単には見つかるまい、と思っていたが海面を覆う海藻に交じって親子ラッコが居るではないか。お花畑になった岬の断崖から海面を見下ろすのでラッコまで100m余りの距離がある、沖合にも別の単独行動のラッコも見える。近いラッコからカメラで撮りまくった。

北海道浜中町霧多布岬・藻場にいる親子のラッコ

0609　この日は霧多布湿原で本命のハナシノブを見つけたいのだが、先日まで異常な寒波が続いて開花していないというので湿原内の木道を全部歩いて探す事に、琵琶瀬・奥琵琶瀬・仲の浜木道を4人組が歩く。幸いにも初めに歩いた琵琶瀬木道ではハナシノブは開花が始まっており花を見る事ができた。ワタスゲ、ミツガシワ、ハクサンチドリ、カラマツソウ等が多い。昼は湿原センターに向かい昼食と花情報の交換、昼食後は湿原センターに近いヤチボウズ木道を歩く。湿原カヌーツアーは15：30スタート。湿原内の琵琶瀬川をカヌーで進む、木道からは見えなかった丹頂鶴や鹿の群れ、赤脚しぎなど水鳥も見える。

霧多布湿原・琵琶瀬川のカヌーツアー

霧多布湿原・ハナシノブ

0610　この日は霧多布から太平洋沿いに山と岬やアヤメが原を超えて漁港で著名な厚岸町へ。昼食後は厚岸湿原カヌーツアーを愉しむ。

厚岸湿原・カヌーツアー

0611 釧路湿原・最深部キラコタン岬・コッタロ・細岡展望台

釧路湿原最深部のキラコタン岬は鶴村村教育委員会を通して文化庁の入林許可証を事前に取得して入林します。前泊地が厚岸ですが今は釧路市街地を迂回するバイパスが湿原側に整備されておりスムーズに通過できました。それから先はキラコタン岬登山口への表示がないので鶴居村から送ってもらった地図を頼りに登山口の東屋へ。此処を9：30に出発してキラコタン岬を周遊して正午少し前に登山口に戻りました。途中はカラマツ林や草原もありますが美しいミズナラの広大な純林が続き、岬もミズナラの純林です。枝払もしてないので純林の枝や林越しに蛇行するチルワツナイ川と湿原を眺めますが日本離れした風景です。

熊との遭遇を避ける為、早朝と午後4時以降は入林も避けるように注意されていますが、この日は我々4人以外には昼を過ぎても会わなかったので入林したのは我々1組だけだったかも。岬から撮影した写真には丹頂の雛も写っていましたが旅行が終わって写真と書類を鶴居村に送ってそれを見た係員から指摘されて分かった次第です。

釧路湿原キラコタン岬・チルワツナイ川の蛇行

この日はさらにコッタロと細岡湿原展望台に登り、夕方には釧路市内のホテルに入って汗を流し、釧路営業所時代の旧友達がセットしてくれた錦町の岸壁炉端へこちらの4人組も合流して歓談。

釧路市錦町の岸壁炉端・昔の仲間達と乾杯

おわり

近年の、外国での記憶から：承前（以前からの続きを）

11期　長岡 正利

『やまざと』昨年号までに続いて、今回も、近年の外国での写真を紹介させて頂きます。

その14：ロシア･ｶﾑﾁｬｯｶへのクルーズ船添乗と、船中での講師の旅

毎回、これまでの外国での山歩きなどを紹介させて頂いておりまして、前号では、2018年のタイからビルマ（ﾐｬﾝﾏｰ）山間部の国境までと、ネパールヒマラヤの山を。

今回のご紹介は、頼まれてのクルーズ船添乗です。

「日本クルーズ客船（株）」の「ぱしふぃっくびいなす」号（旅客定員620名・乗組員約210名）で、右の様な旅を。

（旅客乗船準備中の船内７階ｴﾝﾄﾗﾝｽと、オープンバー ）

（横浜大桟橋から、見送りを受けて出港。）

色んな経緯がありまして、わが奥様も講師ｱｼｽﾀﾝﾄでの乗り組みとなりまして、日本からは11日間も隔絶された生活。毎日が割烹料亭と高級ホテルでの食卓の様で、往復洋上での計４回の講演と、現地カムチャッカの山でのちょっとしたご案内だけで、後はまったくご自由に、という日々でした。以下、どうぞ、写真にてご覧下さい。

下は、出航後の幹部船員挨拶と、７階エントランスにての華やな演奏。 同階オープンバーとツアーデスクでの。

（クルーズ旅程と、長岡登場ページ：同社パンフの一部）

（クルーズ船内の賑わい：同社パンフの一部）

（依頼講演の１回目：右は､その冒頭スライド。）

クルーズ船の旅での､カムチャッカ上陸はペトロパプロフスク市内と､希望者はアバチャ山の中腹散策へ。
（地図は､ソ連邦参謀本部50万分1地形図の一部）

頼まれたのは、カムチャッカへの往路で２回の講演（上写真：復路でも追加２回）でした。

船は、ロシア･カムチャツカ地方の首府「ペトロパブロフスク･カムチャツキー」（左図：アバチャ湾の内奥にあって、対岸にはロシア太平洋艦隊の基地）に接岸。２泊の係留中は、ロシア領土と同様の扱い（ロシアの法令が適用）となって、船内にはロシアの国旗が。

ビザ（査証）なし渡航の扱いとなりまして、工事中の岸壁へロシア官憲が出張（下写真）なされて、下船時のパスポ ート入国押印のみ。入出国管理ビルは工事中･素通り（下右写真）で、壁面の表示文字からは、今後の、露本土･米･中･日からの大勢の来訪客が期待されているらしい、新開地の様子でした。

準備されていたオプショナルツアーには参加しない小生らは、市内へ適宜散策に。下写真はロシア正教の木造小祠堂。僻遠のこの地では、いまだ、信仰も健在の。
右下は、市内の「自由市場」（ソ連邦時代の呼称）での豊富な海産物で、価格数値は１Kgあたりのルーブル金額です。100Rubが､邦貨約¥200。日本では味わえない様な、見事な干物でした。

オプションのアバチャ山麓、花の散策に同行。花の名でしたら、小生も少しは役に立ちます。カムチャッカは、既に秋です。もう新雪の来たコリヤーク山(4321m)と、アバチャキャンプ。火山の広大な山腹斜面にはまだ残雪が多い中で、消えた雪渓沿いの谷間にはまだまだ花が。

日本の高山帯でよく見る花々が、消えた雪渓沿いなどでは、まだまだ咲いておりました。上中央の花、インディアン・ペイントブラシは、ここから北米にかけて分布。その次がエゾツツジで、右上のハクサンイチゲから下のコケモモまで、日本の北アルプスの各地で、普通に見られる花々です。 右はロシアの民芸品、入れ子構造(同じ形・模様の人形が少しずつ小さくなって組み込まれている)のマトリューシカですが、よく見ますと、プーチンさんが居心地の悪そうな顔で。左下隅にはヨシフ・スターリンさんの人形も覗いています。

口約束・お世辞ながらの、「大変好評(参加旅客400名弱)につき、3年後にも再催行を」の筈は、コロナ禍収束近い雰囲気の中での突然のウクライナ侵攻で、「ロシアへ」は、思いもよらぬ水泡と消えました。下の写真は、前々回のカムチャッカでアバチャ山頂(2741m)同道の、オリガさん。皆さん、どうなさっていらっしゃるかなぁ？

ここで、念のためのご説明を:拙稿ページは、全部を筆者が作ったものです。2年前に、投稿は個人4ページ・支部8ページ以内、写真は1ページにつき2枚まで(その挿入編集に手間を要す故か？）とお定めになりました。じつは以前からですが、編集の労の低減に資するようにと、拙稿は上述のように自身で編集してPDFで提出しております。それゆえに、規定とは関わりなく写真がたくさん掲出のページとさせて頂いております。

なお、毎号の執筆ご常連各位にも、「写真沢山の稿の編集お引き受け可」との事前ご連絡を差し上げました。

(一連の稿は、KUWV-OB会のHP中、「会報Web版」からご覧頂きますと、カラーでの閲覧が可能です。)

HP上でご覧頂く場合は、拡大してご覧下さい。拙稿挿入写真はＡ３でご覧を前提の解像度です。

乗船の「日本クルーズ客船(株)」の「ぱしふぃっくびいなす」号は、https://www.venus-cruise.co.jp/#1

アバチャ湾内・洋上での全周眺望：11期OB-加藤様によるWeb掲出 http://urx.blue/YS2R

『やまざと』近年号では、毎回、外国の山歩きなどを紹介させて頂いておりました。
日本にもこだわりを持っている地は色々ありまして、下は、郷里すぐ近くの、高校生時代からの。

セッション Ⅳ

日本山岳文化学会 17 回大会 2019.11.16-17 一般講演
（東京慈恵会医科大学・高木会館２号館にて）

神仏習合の面影を今に残す五箇山白山宮「33 年御開帳・式年大祭」の報告

長岡正利

演者は本学会 2016 年大会で、天正年間の一向一揆や明治の廃仏毀釈を経ても現代に遺った白山信仰の諸仏（うち重文が２点）などを紹介した。また、昨 2018 年の本学会では、伝承に拠る白山開山（養老元年、越前の修験僧・泰澄）から 1300 年目（2017 年）に、福井・石川・岐阜県などの関係の各地で華やかに催された白山開山 1300 年祭のもようを紹介した。

古来の白山信仰（白山修験）は、天台密教系の、神仏習合のかたち（十一面観音菩薩を本地仏とし、その垂迹神が白山（妙理）大権現）であった。しかし、全国におけると同様に、慶応 4（1868）年 3 月の神仏判然令（分離令）によって、神社と寺院の分離独立とその僧侶の還俗や、仏像を御神体とすること等も禁じられた。だが、一方では、五箇山（ごかやま）の白山宮（富山県南砺市上梨（かみなし））では、神社ではあるが、その「本尊」に「秘仏・十一面観音菩薩」があって、近年は 33 年ごとに開帳がおこなわれてきた。今年 5 月のそのもようを、多くの写真で紹介する。

この白山宮は、伝承に拠れば、白山開山の泰澄が人形山に白山菊理媛命（しらやまくくりひめのみこと）を勧請・建立したものといわれ、後に現在の上梨聚落に移設して、文亀 2（1502）年に再建されたもの（棟札の記述による）で、国指定の重要文化財である。

白山宮の鳥居前には御開帳標札と、重文説明にもその旨が。

御開帳の早朝に、拝殿と本殿鞘堂の板戸を開放。
右は、本殿正面上の、鎌倉初期の様式の蛙股。

御開帳が始まって、

五箇山各地から到着の獅子舞が、
次々に奉納される。

拝殿では子供達による
こきりこ舞を奉納。

地域の人達が、正装で、次々に
御開帳を拝観。右仮設で宝物展示。

開帳については、養老元（717）年の泰澄による創祀と伝わる平泉寺白山神社でも 33 年ごとに行われてきており、次回は 2025 年である。

一方では、若き日の泰澄が遙かに白山を望んで登峰・開山を志したと伝わる越知山（おちさん）大谷寺（福井県越前町大谷寺）での開帳は不定期（近年では 1940・55・66・72・87・2003 年）で、この 11 月 2・3・4 日に秘仏多数の開扉が予定されている。

【文献】平泉澄編『泰澄和尚伝記』．白山神社蔵版（1953）：『藝林』Vol.66-2（2018）に再録版あり
越中白山宮奉賛会『白山宮修理工事報告書』．同会（1954）
越中五箇山平村史編集委員会『越中五箇山平村史』上・下巻．平村（1985・1983）
越中五箇山筑子唄保存会編『こきりこ－その由来と歴史ほか』．平村（2001）
平泉隆房「白山信仰をめぐる諸問題」．『藝林』Vol.66-1（2017）

With コロナの 2022 年　古希越えの山遊び

15 期　舟田節子

「私には、時間がない！」が、2 歳上の山友の決め台詞です。嫁した娘が二人の彼女の場合、この先、墓終いや、施設の選択も控えています。「旦那もそうだったけど、死んだ者勝ちよ！」とも。私は半分笑って、半分冷ややか…。ケースバイケースがあるにせよ、「山の引き際」や、「いつ、どこを『見納め』とするのか？」については、やはり、考えてしまうからです。

コロナ禍は、高齢者にとっては、人生を変えるには相当しなかった方のはずゆえ、被害を言い立てまいとは思うものの、ただでさえ体力下り坂の、拍車をかけました。ステイホームの間に、あきらかに「えっと、えっと…」や「何だったっけ…」が進んだ知人達がいます。

行動制限の出なかった今年の夏山には、やはり「時間がない！」と焦った登山者が多かったようなのです。

今シーズンの遭難の特徴について、長野県山岳遭難救助隊隊長は以下のような分析・報告を出しました。

「無事救出の人数が、負傷者を上回り、過去 5 年で最高となった。事前準備や体力・技量不足のため、体力や集中力が低下しやすい下山中の転倒や、行動中の疲労・病気遭難が増加し、滑落は減少。したがって、遭難者数は増えたが、死者は減少」

日帰りや一泊二日コースにとどめても、やはり、体がついていかなかったり、経年疲労ともいうべき持病をかかえていたり…。悲しいかな、憧れと現実との乖離です。

マイペース登山を支えてくれた、というか、まあ、そうならざるをえなかった夫は、「後期高齢者になった」を、言い立てるようになりました。足が痺れる、腰が痛い…。コロナ 2 年目の昨年にして、行けたのは、白山、立山止まり。このままずるずる…も、無念。でも、在職中で、職場への多大な迷惑を考えたら、基本はやはり、自粛でした。

コロナ 3 年目、ワクチンとのイタチごっこに、さすがに辟易になってきました。微生物と免疫力とのせめぎあいは、38 億年前からあった！社会性ある動物である人から、社会性を消すわけにはいかない、しょせん、「共存」なのだ！

ようやく復活してきた山ツアーに、積極的に乗ることにしました。定員減で以前より割高にはなりましたが、一人 2 座席は快適な空間です。

春先から、花追いハイキングや、低山＋温泉を活用して、徐々にランクアップしながら夏山準備をしよう！

それが、滋賀県の太神山、矢筈ヶ岳、岐阜県の納古山、福井県青葉山、長崎県壱岐対馬、尾瀬縦断、長野県鷹狩山、荒船山、浅間前掛山などでした。その間には、夫との花見のオンソリ山や医王山、奥師子吼などをいれましたから、毎週行動ペースには復活できました。

≪対馬の白嶽　雄岳からの雌岳　2022. 5. 15≫

次々と咲く季節の花が、変わらず待っていてくれたかと、嬉しくて、ワンゲル HP にはせっせと送信しました。みなさん、コロナ禍からどんな復活をやっていくものか？投稿であれこれ聞けたらいいなあ…でしたが、どうも、当方が焦った山狂いにしか見えなかったような…。

昔なら、この手で、そこそこ復活できたのです。ところが、世間は、より健康指向となっていました。ジムや、ヨガや水泳に通うのが当たり前。浅野川沿いの我が家の前は、格好のジョギングコースです。

桜の落ち葉を、毎朝掃いている古希越えとしては、「公道の掃き掃除はしないが、イヤフォンで耳を塞いでのジョギングをたしなむ人は多数」です。ついでに「ペットを散歩させて、糞の始末をしない飼い主も多数」です。

スマホが、恐ろしい状況を産み出しています。危ない交差点ですら、子供への注意よりスマホをチェックしている親を始め、視界に入る9割以上が、スマホを触り、優先順位や、関心や、価値観が大きく変わりだしています。

その価値観とは、どうもリア充（私の場合、新書からの入力）となるらしい…。いち早く、話題の映画を見たり、アニメの結末を知っていたり、お店やイベントを知っていたり、時流に敏感で、ランク付けして、「自分らしく」生きている…そんな充実した私を発信して「いいね！」をゲットする。

忙しい日常や家庭から、ちょっと息抜きに出て、ホッと一息といった、軸足が定まった人の楽しみ方と、どこか違う…。

山ツアーでは、「私は健康で、溌剌と生きているわよ！」をアピールしたくてしかたがないようです。やたらはしゃいで、逆らうはずのないガイドにちょっかいをかけ、せっつく…。ゆっくり自然を楽しむどころではなく、わき目もふらず最初からトップスピード。エクセサイズの延長のごとく、猛然と歩いて「気持ちイイ～！」。決めポーズの写真を撮り、即送信し、花も、山名も、スマホを掲げて（違うことも多いのに）、「〇〇だって！」で、お終いです。

下山後達成感に浸れるならともかく、不快感がどっと残るようになりました。「山の引き際」を考えている私、ついつい、粗さがし気味なのかもしれません。

≪双六小屋と鷲羽・水晶　　2022.7.26≫

ともあれ夏山として、7月25～27日には「小池新道を鏡平山荘泊で、双六岳往復」と、8月11～13日には「猿倉～鑓温泉～白馬鑓～白馬～白馬大池～栂池」の2本を歩きました。台風も含めた悪天と、コロナ感染者による営業自粛が度々あった中、幸いに天候には恵まれた方となり、満足できました。

コロナ禍で宿泊予約が必須となり、PCで進めていくと、どんどんリンク先が見つかりました。そこには大晴天のもと、ドローン映像も含めた絶景が広がっています。VRが進んでいく中、もう、そちらで楽しんでもいいのかも…。

さて某月刊機関誌には、以下の山々を紹介しました。コロナの波状攻撃のせいで、ますます昔話でも気後れなく書けることになりました。

11月号…摩利支天山
12月号…大長山
1月号…マナスル
2月号…丹沢山
3月号…眉丈山、七尾城山
4月号…御柱祭、霧ヶ峰
5月号…霧訪山
6月号…天城山
7月号…知床連山
8月号…薬師岳
9月号…朝日岳・栂海新道
10月号…西穂高、奥丸山

「摩利支天山」…御嶽大爆発の7回忌が行われたのを契機に、秋の濁河温泉からの摩利支天山を紹介としました。2014年9月27日、燕温泉にむかう車でこの爆発ニュースを聞き、翌日、噴煙を妙高山から眺めました。秋山JOYが地獄になった悲惨には、気鬱が尾を引きました。山での一般登山者のヘルメット装着は、この時からでした。噴火警戒情報も進歩したのでした。

「大長山」…ガイド本の改訂時期は、単に在庫量で決まります。「分県ガイド」の改訂も、冬場に！たった2週間でチェック！という非現実的。でも市の瀬三ツ谷から小原峠への道を、是非改訂時に加えたかったので、雪の中を撮影に行っていまし

た。大長山を全国区にしたのは、2004年2月の関西大学ワンゲルの遭難でした。また、越前禅定道の標柱立て作業にはオープン参加していたので、どんな手続きや労力で、古道が復活するかも紹介としました。

「マナスル」…2015年4月25日におきたネパール大地震。年末になってようやく復興支援企画のトレッキングが出るようになりました。ソバナ・バジュラチャリアさん（会報33号で紹介）にお見舞いを手渡したくて参加。結果、日本のお正月はカット。カトマンズで初日の出を拝みました。

まだ混迷の現地ゆえ、温かい2200mの素朴な山村の展望地まででした。人なつこい子供達や、鋤を投げ出して深々と挨拶を返す純朴な村民に、癒されました。この時は、震災後のネパールへ行きたくて立案したという、鼻先、指先、爪先のない奥田ガイド（イモトアヤコのバックアップで有名）にびっくり（予備知識なしで、異形が先に目に入ってしまったため）したり、「（6日前）ケイちゃん（谷口ケイさん）が亡くなったんだね。この前は、この本を貰ったのに…」の後にはもう話題にしなかったシェルパ達に、これがヒマラヤ登攀の世界だと思ったり…。雪煙をあげるマナスル、夕映えでピンクに染まるマナスルを、ごく普通の農村の背景に眺めて、「雪の住処」ヒマラヤを体感しました。

また、地震の被害よりも、インドからの石油関係がストップしてのインフラ被害の方が甚だしく、外交とは卑劣・冷徹も、思い知りました。

≪奥田ガイドと。左：マナスル　右：ピーク29
ネパールのガーレガオン村　2015.12.30≫

「丹沢山」…秋の丹沢主脈が、ガスの中を登っただけに終わってしまったので、表尾根経由での丹沢主稜でリベンジしました。輪カンではなく、6本爪アイゼンの選択になることに、やや感動。冬場に見え続ける冠雪の富士にも感激。大倉尾根を下りて、これで、都会人間の山常識が身に付いた…と、思ったものでした。

「眉丈山、七尾城山」…分県ガイドで、52コースを挙げようとすると、入ってくる山。不遜ながら、晩秋から早春の間に仕方なく、いくつか梯子して、山遊びとしています。

眉丈山（雷ヶ峰）は邑知地溝帯の両脇に広がる古墳群の最高峰。その遺構以外にあまり判明していないのが、傍流であったことを偲ばせます。七尾城山は立派な石垣が残り、最近のブームで、一層人気のある山城です。

「御柱祭り、霧ヶ峰」…諏訪の大祭・御柱祭が、部分開催になったことで、7年前の山行を思い出し、取り上げました。

知人の知人が氏子だったことで紛れ込め、御柱を曳行。引き続き、棚木場（山出し開始地点）から観音沢経由で霧ヶ峰に至るという、まさにロコならではの企画でした。旧御射山も、鎌倉殿が狩座を催した丘で、大河ドラマの年に紹介がふさわしいとしての選択。また「山小舎の灯」は、歌碑が立つ奥霧小屋で練られた構想ということも確認。多方面の楽しみ方が考えられると思えた山行でした。

「霧訪山」…5月は、選択に困るほど候補があるのですが、中央分水嶺の山という拘り方もある…で、紹介としました。

「頂上に自生するオキナグサ」は若干眉唾物と思いますが、私達がでかけたときの目的は、山ノ神自然園でのレンプクソウ探しの方でした。（北京）五輪の年の五輪花も悪くない…でしたが、さして気づいてはもらえなかったよう。これくらいの標高は、ちょうど花盛りになっていて、春のエネルギーに染まる気分になれます。

「天城山」…第6波直前に成立したツアーでした。アマギシャクナゲや、アセビのトンネル、天城からの富士…いずれも秋のガス山では不可での、リベンジ参加でした。ツアーならこそ、半島の反対側の天城トンネルや踊子歩道も歩けました。熱川温泉の宿から見上げた急峻な崖…1カ月後には、同じ地形の伊豆山で土石流が発生していました。

「知床連山」…観光船事故により「知床」がちら

つき、知床連山のシレトコスミレを取り上げました。

世界自然遺産指定直後に防災工事で5年間知床公園線は通行止めになっていました。その5年が明けて直後のツアーだったために登山道が荒れており、ハイマツを掻き分けての、羅臼から硫黄山への北上でした。下山直後に、真新しいヒグマの足跡を見つけ、改めてゾッとしたものでした。北海道では超晴れ女の私、この縦走だけは、完全に雨中行軍でした。

「薬師岳」…立山から縦走しての薬師岳を紹介しました。スゴ乗越泊まりだと、半日歩きコースばかりとなり、午前の大展望を満喫して歩けます。実は高1で家族登山だったコースです（槍までだったのを、伊藤新道で抜けた）。家族登山最優先のため、テニスの試合に出られなくなり、ずっとむくれていました。そんなことまでが思い出されました。

コバイケイソウ群生の年で、それで白くなった五色が原の奥に槍ヶ岳…は、ベストショットと思いました。でも、編集者にお任せの選択の内には入りませんでした。思い出やこだわりこそは、個別のものです。

「朝日岳、栂海新道」…朝日小屋泊は3回目でした。管理人の清水ゆかりさんのお姉さんが、金沢局でラジオアナウンサーをやっていて、北陸の百山の話題で取材を受けたこともあります。そもそもが、昭和59年、朝日小屋の所有者大蓮華保勝会が、朝日町町制施行30周年記念で公募したのが白馬岳・朝日岳登山でした。小3と小1連れだった私は「弟も年長の時、チブリ尾根を下りています」と、認めてもらい参加したのです。

機関誌の方には書きませんでしたが、山をやっと再開できた頃、ナカオへ入会の決意をした頃です。

栂海新道は、開通40周年で整備が入るのをチャンスと、決行。マイカーを坂田峠側に停めて、タクシーで北又小屋へ。やたら長かった…。山の水を決して飲まない夫が、唯一、飲んでしまったのがここ。水場へ2往復したのは、荷物も重かった私の方ですが…。場所取りに、栂海山荘に私は先行。夫がなかなか来ない…と案じたら、しばしの仮眠の後、反対方向に歩いていたそう。「軽い熱中症になっていたんだろうな」と。よくもまあ、節子兎に攪乱され、連れ回されているものです。

「西穂高、奥丸山」…2人で再訪した10年前、主峰手前の逆層スラブが怖くて、歳のせいかとめげていたら、数日後、やはり、滑落事故がおきていました。四半世紀前には、中1と小5を連れ、2歳児を担いだ家族登山で登っていましたので、こんなに危なかったはずがないと、不可解に。あの松本深志高校の落雷遭難が、西穂高からの帰りの学校登山であったことからも、当時は、一般登山道がついていたわけです。やはり「岩の穂高」は崩落が激しいのです。

奥丸山は、中崎尾根の展望ピークです。これまで通過だけだった槍平に泊まり、秋の展望を楽しみました。

≪ピラミッドピークから　西穂と拉致され顔の息子達。　山便りの年賀状　　1988.10.9≫

双六行きのため、久しぶりに買った集成図には、「2021年度地震により通行止」などの注意書きが増えていました。天候不順や、コロナで、登山道管理が不十分につき、最新情報取得が必要です。

現場の山にあっては違和感を抱え、機関誌にあってはやたら思い出をたどり、そうか…景色に思い出がまつわる…それでいいのだ、それが、いい山時間を過ごしてきたということなのだ、と達観しようとしています。

いえ、あと、2コース、申し込んであり、節子はまだまだ煩悩まみれ、言動不一致です…。

野鳥のいる幸せ～コモンズを楽しむ～

17 期 小島　敬

Key words
相生山緑地、トラツグミ、オオルリ、ルリビタキ、コゲラ、ヒレンジャク、混群、コモンズ

1. 初めての PW で舳倉島へ行く

今から 50 年前の 1972 年 5 月連休、ワンゲルの新入生歓迎・潮風 PW〈PL 松林さん（15 期)〉で、能登半島沖の舳倉島へ行った。上級生 6 名、新入生 13 名、計 19 名の大所帯だった。5 月 5 日金沢は朝から雨。国鉄七尾線の終点輪島駅から歩いて 30 分の袖ヶ浜キャンプ場で設営。5 月 6 日 5 時半、起床。テントの中で朝飯。そのあと、輪島から舳倉島への定期船に乗った。港から出ると俄然揺れ始めて、みんな船酔いした。舳倉島までの 2 時間半はあまりにも長かった。舳倉島では灯台に登ったり海岸で遊んだりした。夕方、袖ヶ浜のテン場に戻った。夜はファイアストーム。浜辺に流木を集め、火が消えるまで歌った。夜空が素晴らしく美しかった。５月７日、快晴。海は青く澄んでいた。波打ち際で鯖が手掴みで獲れた。

海辺でキャンプをしたことも船で外洋の離島へ渡ったこともなかったので、すべてが新鮮だった。何よりもワンゲルが海や島へ行くという自由な発想に驚いた。潮風 PW に参加したからこそ、その後の部活動も続けられたのかもしれない。

この舳倉島が日本有数の渡り鳥の中継地だということは、当時、知る由もなかった。

2. トラツグミ（ヌエ）とオオルリ

入部して最初の、夏合宿本番前の白山準合宿、南龍散策で先輩から高山植物の名前を教えてもらう機会があった。先輩の中にはタカネシランソウ（高嶺紫蘭草？）などといい加減な説明で１年生を煙に巻く人もいたが、学究肌の上馬さん（15 期）は誠実に丁寧に教えてくださった。1972 年に発行された部誌 Bergheim 13 号“高三郎特集”に、上馬さんが高三郎・倉谷周辺の動植物について寄稿していた。印象に残ったのは、トラツグミとオオルリだった。「ベルクハイムに泊まると夜に聞こえる声の正体はトラツグミ（ヌエ）という鳥」、「オオルリは姿も声も美しく一度見たら忘れられない鳥」だという。でも結局、それ以上の興味がなかった僕は、倉谷で鳥を探すこともなく卒業し、金沢を離れた。

50 年後、名古屋市内でトラツグミとオオルリを見ることができた。まさか自宅近くの相生山緑地で出会えるとは思ってもいなかったので、本当に吃驚した。コロナ禍での運動不足を解消する為にバード・ウォッチングを始めていなかったら、こんな幸せな巡り合わせはなかっただろう。

トラツグミ〈留鳥〉

相生山では、冬に 2 回観察できた。林床の落ち葉を掻き分けて虫を探していた。2 回目には“トラダンス”というユーモラスなダンスも披露してくれた。頭と足の位置は変えず、胴体をゆする仕草が可愛い。夜中に山を散歩するのは恐ろしいので、

【①トラツグミ（2022/3/10)】

ベルクハイムで慣れ親しんだあの哀し気なヒョー、ヒョーという啼き声はまだ聞いていない。トラツグミ（鵺）は『古事記』や『万葉集』にも出てくるほど古い鳥らしい。

オオルリ〈夏鳥〉

もともとは渓流沿いに棲む鳥だが、山地から山地へ渡るときに立ち寄ることがあり、沢や池など水辺のない相生山にも 5 月連休にやってくる。三鳴鳥〈オオルリ、ウグイス、コマドリ〉の一種で、美しい声が林に響き渡る。なかなか姿を見せてくれず、さえずりだけが林の中を移動していく。1 回だけメタセコイアの枝に留まっているオオルリの撮影に成功（ピンボケ！）した。周りが青くておなかが白く、まるで「痩せたドラエモン」のようだった。確かに一度見たら忘れられない鳥だ。同じ頃飛来するキビタキ〈夏鳥〉もきれいな声で鳴く。オオルリはフルート、キビタキはピッコロに例えられる。美しいさえずりを聞きながらの散策も楽しい。

【②オオルリ（2021/4/30）】

オオルリの独特の青は色素色ではなく、羽毛の微細な構造が作り出す構造色（structural color）だ。ルリビタキ〈留鳥〉の青もそう。構造色はブラジルのハチドリやモルフォ蝶が有名だ。ハチドリの構造色は青だけではなく驚くほど多彩だ。深い森の中をモルフォ蝶が静かに舞うさまは蠱惑的で、普通の色素ではあの艶めきは出ないと思う。

3. 相生山の四季を歩く

名古屋市内東部丘陵地の南に位置する相生山緑地（123.7ha。上野恩賜公園の 2 倍、金沢大学旧城内キャンパスの 4 倍強の面積）。緑地指定を受けて開発が制限されたおかげで広大な雑木林が残っているが、周囲に緑はほとんどない。航空写真で見る相生山は、夥しい数の兵隊（大規模団地や住宅）に包囲された古代中国の城塞都市のようだ。台形をした緑地は、北の 1/5 が「オアシスの森」として散策路が整備されている。南の 4/5 では里山風景が見られる。東西に浅い谷が広がり畑や家が点在している。このあたりに下水道はなく、バキュームカーが定期的にやってくる。畑には常滑焼の壺が埋められている。肥溜めだ。小学校低学年の頃、相生山で友達と遊んでいて肥溜めに落ちたことがある。この洗礼のお陰で雑菌に強くなり、お世辞にも衛生的とは言えないワンゲルをどうにか卒業できたのだろう。

相生山には、北陸の山のような春の「山笑う」という風情はない。芽吹きが始まっても山が微笑むのは一瞬で、桜が終わったと思ったら、あっという間に葉が茂り初夏がやって来る。緑にグラデーションはなく、濃い緑一色となる。初夏はバード・ウォッチングには不向きだ。木々の葉で視界が全く効かない。天敵から身を隠せるこの時期に小鳥たちが子育てするのは納得できるのだが、鳥見をする立場としてはなんとも具合が悪い。それに加えて、蒸し暑いし蚊も多い。せめてもの救いが、さえずりの美しいキビタキが７月まで鳴いていることくらいか。夏は蝉が喧しい。秋は秋で、近くの小学校で運動会の予行演習があり、大音量で流れる「天国と地獄」で鳥たちの気配がかき消されてしまう。幾度かの寒波が通り過ぎた年の暮れ、葉を落とした雑木林はすっかり冬の装いとなる。冬鳥が次々にやってくるので、バード・ウォッチングには最高の季節だ。コロナ禍で「二拠点生活」が取り上げられるようになったが、渡り鳥たちは大昔から「二拠点生活」をしている。

ルリビタキ〈留鳥〉は、冬の相生山で一番人気だ。スズメくらいの大きさだが、青と白に黄色のアクセントがあり林の中でも見つけやすい。青色と黄色は補色関係にあるので美しいのだろうか。

【③ルリビタキ（2022/3/3）】

相生山では老若男女がそれぞれの生活スタイルで散策している。季節や時間帯によっては 3 時間歩いてもほとんど人に会わないこともあるし、家族連れや保育園の子供たちで山が騒々しいこともある。500㎜ クラスの望遠を持ったバード・ウォッチャーは稀にしか来ない。そういう人に出会ったら、「いつ」「どこで」「どんな鳥」が見られるのかを必ず聞くようにしている。名古屋市の野鳥生息状況調査（2020 年）では 54 種類が観察されており、その内 32 種類を確認できた。緑地の中に溜池などの水辺があれば、もっとたくさんの野鳥が飛来するかもしれない。猛禽類もやって来る。冬晴れの日、はるか上空をノスリやハイタカが舞う。緑地に隣接するゴルフ練習場の高い鉄塔には、時々オオタカが留まって素人ゴルファーのスイングをチェックしている。

4. コゲラ（小型のキツツキ）

名古屋市内でコゲラ〈留鳥〉が見られるようになったのは1980年代だ。市内の平和公園（147ha）で初めて観察されたのが1985年。1987年には留鳥化し、その後市内各地で普通に観察されるようになった。都会の木々が成長してきた証だろう。

相生山でバード・ウォッチングを始めたきっかけはコゲラだ。他の俊敏な動きの鳥たちに比べ、そのドンくささが妙に親近感を覚えたからだ。
コゲラは手がかりが多く、素人にも探しやすい。1)木の幹の中にいる虫を探すためのドラミング（木の幹を叩く音）、2)囚人服のような黒と白のまだら模様、3)木の幹を下から上に向かって虫を探す独特の動き、4)「ギィ」という特徴的な鳴声。

【④コゲラ（2020/12/20）】

相生山の面積は 123.7ha。コゲラの縄張りは20haと言われているので、単純に縄張りが6あると仮定して、その縄張りを縫うように観察ルート（6km）を設定した。2020年10月からこの観察ルートを変えずにひたすら歩き続けてきた。1時間半で歩けるところ、倍の3時間かけて歩いている。五感を研ぎ澄まし鳥の気配を探る。動体視力と聴力は少し良くなったような気がする。天気予報では風速も注意するようになった。風が強いと葉擦れの音で鳥の気配が消えてしまうのだ。冬は落ち葉を踏みしめる自分の足音すら邪魔になる。

色々な野鳥がいることを知り、観察記録（鳥の種類、時間、場所など）をつけるようになった。

5. 日本野鳥の会入会

2021年2月、「日本野鳥の会」に入会した。入会したのに深い意味があるわけではない。カメラを構えてウロウロしていたら、不審者と思われることは間違いない。怪しまれた時のお守りが野鳥の会の会員証だ。

野鳥の会入会の10日後、突然、ヒレンジャク（緋連雀）の群れが自宅の庭にやってきた。初めて見る鳥だった。あたりを睥睨するような鋭いまなざし。南方のジャングルにいたら似合いそうだが冬鳥だ。ヒレンジャクはアムール河下流域にだけ棲んでいる。毎年日本に渡るわけではないようだ。野鳥の会入会のお礼にわざわざウチまで来てくれたのだと勝手に思っている。

【⑤ヒレンジャク（2021/3/2）】

1934年に創立された「日本野鳥の会」初代会長、中西悟堂〈1895-1984〉は金沢市出身で、金沢ふるさと偉人館に顕彰されている。

野鳥はカメラ（望遠付のポケットサイズ）で撮り、帰宅してから図鑑で調べることにしている。名古屋市の生息状況調査表で当たりを付け、図鑑の中から探す。今ではスマホのカメラを野鳥に向けると名前が表示されるアプリや鳴き声で検索できるアプリもある。アナログだけど図鑑で調べそこに自分なりの発見があってこそ、面白いのだと思う。コロナ禍で、野鳥の会ではオンラインでの探鳥会や初心者向け講座が行われている。自宅に居ながらにして参加できるのはありがたい。

6. 混群

秋から冬にかけて数種類の小鳥たちが集団で林の中を移動することがあり、この群れを「混群」と呼ぶ。それぞれの鳥のセンサーが危険を察知して互いに知らせあうことで、天敵から身を守るといわれている。相生山では、留鳥のシジュウカラ、メジロ、ヤマガラ、コゲラなどが混群を作る。
混群のお陰でコゲラが探しやすい。

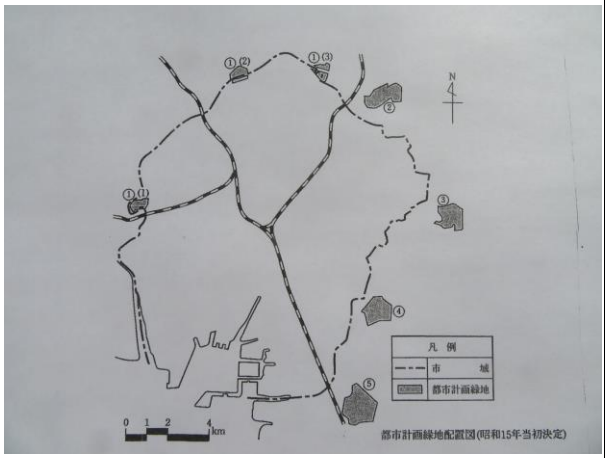
動物行動学者・鈴木俊貴さん（京大・白眉センター）の研究によって、シジュウカラは単語や文

法を持っていることが証明できたという。「ジャージャー」はヘビのこと。シジュウカラが地上にいるヘビを見つけて「ジャージャー」と鳴くと、混群の他の鳥たちも一斉に警戒して地面を確認することが分かった。なんとリスまでも！他の動物もシジュウカラ語が分かるのだ。ヘビを発見したシジュウカラが、「ピーツピー」（警戒しろ）＋「ヂヂヂ」（集まれ）の語順で鳴くと、仲間の小鳥たちが集まって来てヘビを威嚇する。逆の語順では反応しないことも判明した。シジュウカラには文法能力があるのだという。2022 年 9 月、名古屋で鈴木さんの講義を聴いた。分かりやすいお話だった。今後のさらなる研究成果が楽しみだ。

7. 防空緑地としての相生山

国の都市計画法の改正を受け、名古屋市では 1940 年、名古屋を環状に取り巻くように、５つの緑地（７箇所）が都市計画決定され、「防空防護、都市膨張の抑制、密住の防止、市民の心身の鍛錬」の一石四鳥の施設として整備されることになった。中心部に侵入してくる敵機を周縁部で迎え撃つためだ。しかし、緑地に高射砲陣地等の軍事施設が置かれることなく敗戦を迎えた。

〈大阪では、服部緑地（126ha）や鶴見緑地（122ha）などが防空緑地に指定された〉



【⑥防空緑地の地図（南東部④が相生山緑地）
『名古屋都市計画史』p. 173 図 3-16】

名古屋市への空爆において、米軍は三菱などの軍需工場へは爆弾で、市街地へは焼夷弾で攻撃を行なった。中心部の人口密集地をゾーンⅠ、それを囲む地域をゾーンⅡとして目標を定め、1945 年３月と５月に焼夷弾での大規模な無差別空爆を行ない、多くの一般市民を殺傷し民家を焼き払った。疎開等大量の避難民の発生により名古屋市の人口は 1 年間で半減（134 万人⇒60 万人）した。仮に防衛関連施設が緑地に置かれていたら、真っ先に攻撃目標となって徹底的に破壊されていただろう。相生山のすぐ西にある僕の実家は爆撃で跡形もなくなっていたにちがいない。

戦後の高度経済成長期、東部丘陵地は切り崩されて団地や住宅地に生まれ変わり、大半の緑が消えた。戦前に指定された防空緑地は「密住の防止、市民の心身の鍛錬」には大いに役立っている。

8. コモンズを楽しむ

相生山緑地は現在「長期未整備公園緑地」と位置づけられている。民有地が多く、予算的制約から買収が進んでいないためだ。10 年～20 年単位の長いスパンで今後の整備計画も立てられている。樹林地については「借地対応」地域を設定し民有地を名古屋市が借り受け、「オアシスの森づくり事業」と名付けて雑木林の保全に取り組んでいる。市民グループが雑木林の植生管理や自然観察会などを行なっている。土地所有者、市民、行政が協力して管理する試みを進めているのだ。

これは、「共同管理している自然」という広義のコモンズ（Commons）ではないか。環境社会学のテキストに載っているコモンズは、「イギリスの領主の所有地に庶民がアクセスの権利（利用権/収益権）を認めさせたもの」とか「日本の入会権」とか、およそ僕には関係のない話だと思っていた。コモンズがこんな近くにあったことに気づけたのも、野鳥たちのお陰だ。

北欧諸国には万人権（everyman’s rights）がある。他人に迷惑をかけず生態系を損なわないことを前提に、他人の所有する土地や山林に誰もが自由に立ち入り、自然を楽しみ、ベリー類やキノコなどを採取することができるという環境享受権だ。自然と共に暮らすことが当たり前で、人口密度の低い北欧ならではの権利なのだろう。

身近な自然が多くの関係者の手で守られていることに感謝しながら、きょうもバード・ウォッチングに出かけることにしよう。

剱岳早月尾根

62 期　伏木涼太朗

■日程　2022 年 3 月 22 日（火）～24 日（木）

■メンバー　伏木（62 期）、安村、吉武
（共に金沢大学医学部山岳部）

■ルート概要　伊折―馬場島―早月小屋―剱岳
―早月小屋―馬場島―伊折

■装備　3～4 人用テント、食料 6 日分、ガスストーブ×2、ガス缶（500g×3、250g×1）、8.1mm×60m ロープ 1 本、スノーバー×2、土嚢袋数枚

＜day1　3 月 22 日＞天気：雪のち晴れ
8：00 伊折―10：30 馬場島
―12：00 松尾平―17：30 早月小屋

伊折―馬場島間は警備隊の雪上車による圧雪が基本的にはあります。ただ、一部区間では斜面からの雪崩や落石に注意が必要です。馬場島―早月小屋間は特別危険な箇所はないですが、時期によってはクラックに注意が必要です。松尾平より上部ではトレースが無く、終始カンジキで膝ラッセルとなりました。

＜day2　3 月 23 日＞天気：晴れのち雪
5：30 早月小屋―10：30 カニのハサミ―
11：00 剱岳―15：30 早月小屋

この日はルート工作の予定でしたが、早月尾根上部の積雪コンディションが良く、登頂することができました。2600m 付近まではカンジキで膝ラッセル、それ以降はアイゼンに履き替えての登高となりました。早月小屋―剱岳本峰間は滑転落や雪崩に細心の注意を払う必要があります。特に池ノ谷側の斜面に安易に進入しないこと。また、積雪の状態に応じて積極的にロープを使用すべきだと思います。今回は、2800m付近の小ピーク、獅子頭のトラバースと本峰直下の蒼氷ルンゼの 3 ヶ所で安全のためにロープを使用しました。

＜day3　3 月 24 日＞天気：雪のち晴れ時々曇り
7：30 早月小屋―9：30 松尾平
―10：30 馬場島―12：00 伊折

ひたすら下るだけです。下山後は、上市町の安くて美味しい焼肉屋さん「からしし」へ。ランチの定食がおすすめで、定食はご飯おかわり自由でした。個人的には豚生姜焼き定食がおすすめです。

＜終わりに＞
実働 4 日予備日 2 日の予定でしたが、ルート工作が順調に進み 3 日間で計画を完遂できました。
警備隊によると、今シーズンの剱岳はコンディションが悪く早月尾根からの登頂は初、剱岳自体も黒部横断の上田 G パーティーに次ぐ 2 パーティー目らしいです。
冬剱入門の早月尾根ピストン、皆さんもご自身の腕試しにどうぞ。

白山北方稜線　医王山―白山縦走

62 期　伏木涼太朗

■日程　2022 年 3 月 7 日（月）～12（土）
予備日 13 日（日）
実働 6 日、予備日 1 日の計 7 日

■ルート概要
見上峠―医王山―刀利峠―順尾山―大門山―大笠山―笈ヶ岳―野谷荘司山―北弥陀ヶ原―白山―殿ヶ池避難小屋―市ノ瀬―風嵐ゲート

■エスケープ案　①横谷峠・刀利峠→湯涌温泉
②大門山→西赤尾
③大笠山→中宮温泉
④笈ヶ岳→一里野
⑤野谷荘司山→白川郷

■個人装備
山岳スキー用品一式（3 人ともセンター95mm程度の板に Tech ビンディングを使用）、冬山登山装備一式、ハーネス、カラビナスリング少々

■団体装備
3～4 人用テント、ガスストーブ×2、
ガスカートリッジ（500g×3、250ｇ×1）、
5mm×30mロープ、土嚢袋数枚（支点用）

＜プロローグ＞
「この稜線、白山まで続いているらしいですよ」。この山行の発端は、昨秋に奥医王山にてメンバーのひとりに話したことがきっかけだった。
医王山とは、白山を主峰とする両白山地の最北端にそびえる標高 1000m足らずの低山である。ただ、無雪期の両白山地は藪がうるさく、登山道がない箇所も多いため、積雪期に山岳スキーを使えば容易に縦走できるのではないかと考えた。そして、今年 3 月医王山から白山を“白山北方稜線”と銘打って縦走することとなった。ただ、過去の記録を探しても記録が全くないため、所要時間や装備、リスクについて想像し難いものがあったが、、、

＜day1　3 月 7 日＞
6：00 見上峠―9：00 奥医王山―14：00 刀利峠―16：00 順尾山登山口

大学から 15 分足らずの医王山の登山口・見上峠出発する。湿っぽい雪が降っており、重荷と相まって、この先が思いやられる。この日は、計画通り順尾山登山口で幕営する。初日は、林道をシール歩行する箇所が多く、比較的距離を稼げて嬉しかった。

＜day2　3 月 8 日＞
6：00 順尾山登山口―7：00 順尾山―8：30 大倉山―10：00 赤堂山―12：30 月ヶ原山―15：30 大門山―17：30 赤摩木古山―18：00 ナタメ平手前のコル

2 日目も天気に恵まれ快適な行動になると思っていた。しかし、小さなアップダウンの多い稜線を巻くか通していくか判断が難しく、想像以上に時間が掛かってしまった。稜線を巻くと、雪崩のリスクがあり、トラバースは足が疲れてしまう。一方、稜線通しだと、雪庇の発達やシール歩行か滑走かの判断に悩ませられる。結局、シートラツボ足で処理する部分もあり、薄暗くなる 18 時くらいまでの行動となった。大門山では、目標の白山を捉えたが、気が遠くなるほど遠く感じられた。このままでは、計画の変更を余儀なくされそうだ。

＜day3　3 月 9 日＞
7：00 ナタメ平手前のコル―9：30 見越山―11：00 奈良岳―14：30 大笠山―
17：30 笈ヶ岳―18：00 小笈ヶ岳付近の 1730mピーク

この日もスキーでは通行が危険な箇所があり、ダブルウィペットとアイゼンによる歩行を余儀なくされるため、長時間行動となってしまった。大笠山からその先の最低コルまでは標高差が 300m近くあり、入山 3 日目にしてようやく“ひゃっほー”なツリーランを楽しむことができた。通常の山行であれば、目的地となりうる笈ヶ岳も今回の山行では、通過点に過ぎず、日の入りも迫っていたため、写真を適当に撮影して陽が沈むギリギリの時間に小笈ヶ岳付近で幕営とした。

＜day4　3 月 10 日＞
6：30 小笈ヶ岳付近の 1730mピーク―9：00 仙人窟岳―12：30 瓢箪山―13：30 三方岩岳―
15：30 野谷荘司山―16：30 もうせん平

この日は、瓢箪山までの稜線がとにかく悪かった。アイゼンシートラで稜線通しを歩いたり、稜線を巻くために滑走したりトラバースしたりシール登行したりで、体だけではなく頭も使った。野谷荘司山の白谷では、医王山以来のトレースを発見し、その先には縦走路の中で最も下界に近いポイントであろう白川郷が見える。ここまで好天に恵まれ、予定通り計画を消化できそうな気がしてきた。連日、長時間行動が続いていたため、今日は早めにもうせん平で幕営することにした。

＜day5　3 月 11 日＞
6：00 もうせん平―7：30 妙法山―12：00 間名古の頭―18：00 白山（御前峰）
―18：30 白山室堂

これまでの 4 日間に比べると快適な稜線歩きが続き、ぐんぐん距離を延ばすことができた。そして、5 日目にしてようやく標高は 2000mを超えた。しかし、連日の長時間行動によって靴擦れが酷く、水膨れや皮が剥けた箇所が多く、なかなかしんどい行動が続いていた。16：00 頃、お花松原に到着し、ここで幕営するか協議がなされるが、快適な冬季小屋の中で幕営したいという気持ちが勝り、また、天気が良いこともあり、白山室堂を目指して行動を継続することとした。そして、日も暮れかけた 18：00、白山北方稜線の最後のピーク白山最高峰の御前峰（2,702m）に登頂した。ピークから 30 分ほど下った白山室堂で冬季小屋の中でこの日は幕営した。

＜day6　3 月 12 日＞
8：00 白山室堂―9：30 別当出合―10：00 市ノ瀬―13：30 白峰風嵐ゲート

今日は 6 日目にしてようやく滑走を楽しむことができる日。殿ヶ池避難小屋経由で白山室堂から市ノ瀬まで標高差 1,600mを滑走した。白山公園線の林道は、昇温や融雪によって雪崩や落石が酷く、通過自体にリスクがあると感じた。そこは、メンバー間の適切なポジショニングやスキーの機動力を活かし、処理した。そして、6 日目の 13 時半、16 kmの林道滑走を終え、最終目的地としていた白峰風嵐ゲートに到着した。

＜エピローグ＞
天候に恵まれ、計画通りに近い形で山行を完遂することができた。確かに、医王山から白山は繋がっているものの、稜線上は気持ち良く滑走できる部分が少なく、シールを付けたままでの滑走やシートラを余儀なくされる部分も多かった。夏に本ルートを踏破できる人は現れるのであろうか、、、

本山行記録は、山と渓谷社より発売の「ROCK & SNOW98」にも掲載されておりますので、併せてご覧いただけますと幸いです。また、ヤマレコ（https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-4071254.html）もご覧ください。

「会員のご意見」

倉谷ベルクハイムの今後について

かつて、初代の倉谷ベルクハイム(BH)の計画・対外折衝・設計・施工管理を担当した合津(6期)です。秋には、ダムへの県道が関係車輌以外通行不可となったことで、恒例の小屋作業も中止となった由でした。合津は、今は、単なる１人のOBの立場ですが、一言をと思いました。

倉谷への県道の災害復旧が終わったとしてもやがては、BHを愛してこられたOB諸氏の高齢化に伴いその補修・維持は出来なくなると思われます。BHの土地は、旧・金沢営林署(現・石川森林管理署)が管理する国有林野を金沢大学長が使用申請し、認められて、更新を繰り返してきたものです。BHの維持が出来なくなれば、世の常識としては原状に復して(更地として)使用終了とすべきですが原状回復には数100万円を要す(擁壁部を含む「建設廃棄物」のヘリコプター運搬)と思われます。

そこでの提言ですが、今後とも、BHが朽ち果てようとも、OB会の方で建物敷地の「使用更新」だけは継続して頂くのが妥当かと思います。

出来ますれば、あの地に「かつてここに、金沢大学ワンダーフォーゲル部の山小屋「ベルグハイム」あり」の様な不錆軽金属製標識の設置があればと思います。（ｺﾝｸﾘｰﾄ運込みはもう出来ないので）

6期・合津 尚

（上は長岡が合津様から電話お聞き取りして文章化し、更に電話での読み上げで確認したものです。）

「やまざと」誌は、今後とも印刷冊子を希望します

「やまざと」昨年号に、「紙媒体の冊子である必要はないのではないか」とのご意見が寄せられておりましたが、それについての意見です。

世はデジタル化全盛で、それは傾聴すべきご意見ですが、歳とともにPCをお使いではないOBも増えます。紙印刷物の瞬時一覧把握性（冊子はページぱらぱらでも内容をある程度は把握でき、地形図や新聞等でも同様）は、貴重と思います。

何よりも、PCやデジタル媒体は壊れることがあります。紙は永遠です。PCをお使いではない方への配慮も必要と思います。

11期・長岡正利

（上は合津様も同意見です。また、3期・田村様(WV創設のお一人)も、BHを含めて同じご意向でした。）

次回総会提案予定

これまでに寄せられた皆様からのご意見をもとに役員会で検討した結果、当会の運営に関する以下の内容について対応することとし、次回総会にて決議及び報告する予定です。

１　会報「やまざと」の変更【決議事項（予定)】

A4 サイズでページ 8 枚のリーフレット形式とし、3 つ折りにして定型封筒にて郵送する。

団体としての活動情報を記録し保存していくことを基本とし、内容は、金沢及び各支部等の団体活動報告、同期会活動報告、現役活動報告、役員会・事務局からの連絡等とし、個人からの寄稿は OB 会ホームページにて掲載（本文で掲載者と表題を紹介）する。

各原稿は原則 1 ページ以内。余白、文字サイズを変更する等により従来の文字数よりできるだけ多く 1 ページ内に記載できるようにする。

各記事は必要あればダイジェスト版で構成し、必要に応じて各原稿内容を拡大・充実した内容でホームページにて掲載可能とする。会計報告と監査報告を毎号掲載する。

従来どおり未納の方に振込依頼書を同封して納入を依頼。

現行の冊子形式「やまざと」は 65 周年記念号（第 38 号）をもって終了する。

（理由）

冊子形式でのコストは過去 10 年平均で 1 年あたり印刷費 28 万円程度、郵送費 6 万円程度となっており、対会費収入で 7 割近くを占めている。今後会費収入の減少が進んでも長期間にわたって会の活動の維持ができるようこれらのコストを収入に見合った適正な水準としたい。

また、提案の方式とした場合、現時点での業者見積ではカラー印刷で 40%程度の支出減少、モノクロ印刷であれば 55%程度の減少が見込まれ、今後の会費収入減少の傾向にもよるが、現役活動への支援額を当分の間、年間 10 万円程度増加させることも可能になる。

２　監事の新設【決議事項（予定)】

会計及び事業運営の適正を担保するため新たに監事を設ける。

会則の変更を行う。第 8 条（機関）に第 3 号として「3. 監事」を追加する。

（現行）第 8 条(機関)

本会に次の機関を置く。

1.総会

2.役員会

併せて、「会則」の表記を団体に用いられる一般的名称である「規約」に改める。

３　ホームページの充実【報告事項（予定)】

会員名簿ページを「会員専用ページ」とし、現在の名簿に加えて、OB 会規約、入会手続き、運営体制、幹事名を掲載する。

これらがホームページに掲載されている旨を新しい「やまざと」の編集後記に記載する。

令和５年（２０２３年：次回総会開催年）までの

ＯＢ会会費及び寄付金の納入についてのお願い

会計担当　23 期　小久保光将

日頃よりＫＵＷＶＯＢ会運営にご協力いただき誠にありがとうございます。

当会では５年ごとの周年行事をはじめ、会報「やまざと」の発行、小屋作業（小屋酒場）、現役との懇親会等多くの行事を継続的に実施しております。

これもひとえに多くの OB・OG の皆様から会費のご協力があったからこそ継続できたものであり、この場を借りて皆様のご協力に改めて感謝する次第です。

おかげさまで今期の一般会費収入は 2,809,000 円（次期会費の前払分含む）、寄付金収入は合計で 1,047,000 円のご協力を頂きました。

今後ともご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

記

１．会費

年 2,000 円。ただし、事務負担軽減のため、５年間の一括払い（＝10,000 円）にて納入いただければ幸いです。会費納入有無の確認は会長（巻末）までご連絡ください。

２．現役活動支援寄付金

・「現役活動支援寄付金」として任意のご寄付をお願いしております。ご賛同いただける方は 1 口 2,000 円として、任意の口数を会費に加えてお振込み頂けますようお願い申し上げます。

・この寄付金は、現役生の活動支援や将来における万一の事故対応の目的等で使用することとし、当面の間、積立金として一般会計とは別に管理します。

３．納入方法

・今期のご入金が未確認の会員の方に郵便局扱いの払込取扱票を添付しております。この振込用紙をご利用ください（手数料は各自のご負担となります。）。

・その際、金額、住所、氏名、ご自分の「期」をご記入ください。

・銀行振込でもＯＫです。その場合は次の口座へお願いします。

北國銀行本店営業部　普通預金№223703　金沢大学ワンダーフォーゲル部ＯＢ会

編集後記<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<

皆様、変動する社会活動の中、お元気でお過ごしでしょうか？

3年余りにわたって猛威を振るってきた新型コロナウィルス感染症は、素早い対処のお陰で恐れられていたほどの重大事態にならずにすんできました。日常の様々な活動もある程度の制約を受けるとは思いますが、充実した内容で再開できるようになっていくことを願いたいものです。

ここ数年は授業の制限も大きく、現役の皆さんの活動は登山の醍醐味である宿泊を伴う活動ができなかったと聞いています。今までになかったこのような出来事も人生の糧として捉え、今できる限りのことを実行する中で残る大学生活を豊かなものしていって頂きたいと思います。

OB会活動は、ワンゲル創生期の会員の高齢化に伴う活動力低下、実質的な会員数の減少による会費収入の減少といった10年、20年後の現実を見据え、「やまざと」内で述べられている提案を含め、対応を考え実行していけるように皆さんの御協力をお願いしたいところです。中堅、若手の会員からの積極的な提言と活動への参加をいただければ言うことはありません。

さて、OB・OG・現役の皆さまのご協力によって今年も第 37 号「やまざと」が発行できました。心より感謝申し上げます。

金沢大学ワンダーフォーゲル部ＯＢ会会報誌「やまざと」vol.37

発行日　　　2022年　12月

発行者　　　黒崎敏男（OB会会長・22 期）

e-mail　(PC) ichie@bronze.ocn.ne.jp

OB会事務局　〒920-1154 金沢市太陽が丘3－133 仲村正一（24 期）

TEL 080-3741-0568

e-mail　(PC)　jobvisionmap@icloud.com

OB会ホームページ　http://www.kuwv.net 管理人／奥名　正啓（15期）

OB会費払込口座　（口座名義：金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会）

郵便局（振替）　00780-3-14120

ゆうちょ銀行（送金）　〇七九支店　当座預金　No.0014120

北國銀行　　　　本店　普通預金　No.223703

《事務局から》

◇住所が変わられた方は、お手数でも会長黒崎(ichie@bronze.ocn.ne.jp)又は事務局仲村(jobvisionmap@icloud.com) までメール等でお知らせいただいけると幸いです。

また、各期で幹事（代表）、事務部長(連絡窓口)などのとりまとめをしている OB の方から同期を代表して通知していただければ尚ありがたいです。

◇原稿を投稿してみたいと思われる方はいつでも原稿を受け付けていますのでメールでOB会長まで送っていいただければ幸いです。

金沢大学ワンダーフォーゲル部ＯＢ会愛唱歌

森のうた

一、キミは覚えているかい？
雨上がりの森のにおい
氷りだす月
オレンジに染まる谷　くだったこと
ボクは　ほしい
雲のように
変わりつづけるこころ

二、ボクは持っているかな？
峰の奥の空の深さ
鳥の孤独
あの山でキミがつぶやいた言葉
ボクは　ほしい
オオシラビソの
立ちつくす激しさを

三、キミは知っているかい？
にこ毛そよぐブナの森を
山靴の夢
倉谷のタムシバの花の白さ
ボクはほしい
カタクリの
日なたに躍る気持ち